

オーストラリア法会での説法

李洪志

一九九九年五月二日～三日 シドニーにおいて

皆さん、こんにちは！（拍手）

前回シドニーに来てから、あっという間に既に一、二年が経ちました。前回法会を開いた時に私は来ました。当時の学習者はまだこれほど多くはありませんでした。しかも、主に中国系の人々が大法を学んでいました。現在、人が多くなりました。しばらくの修煉を通じて、皆さんは法に則って法を認識することができるようになったと私は感じました。修煉の中で、皆さんから多くの質問が出され、皆さんはそれについての答えを得たいと思っています。今の時期に来れば、本当に皆さんに幾つかの質問に解答し、幾つかの問題を解決することができ、タイミングが良いと思ったので、皆さんに会いに来ることにしました。

最近の修煉において、オーストラリアの状況はわりと良かったのです。修煉の中で法理に対してまだ明確に認識することができないところがありますが、状況は全体的に良いのです。今日は主に皆さんに会いに来たのであって、ついでに幾つかのことについて触れておきたいと思います。ですから、今日私が説法し終わったら、皆さんの発表を聞いてみたいと思います。明日、私は午後の時間を利用して皆さんの質問にお答えします。何か質問があれば、メモして会議の事務局に提出してください。私はそれをもって皆さんに解答いたします。

質疑応答するにあたって、一つ的前提があります。つまり、私は法輪大法を修煉している学習者のために修煉中の問題を解答しているのであって、常人社会で起きたことや人類社会のほかの問題を解答しているではありません。それらの問題を私は解答してはなりません。現在私は私の修煉者に責任を負うだけであり、如何なる国の政治、政策と法令にも触れるつもりはありません。私はこのことを行う際、人々に責任を負わなければならない、同時に社会に対する責任をも考慮に入れました。人類社会の発展には定めがあり、それ自身の規律に従って進んでいるものです。これらのことに私は触れたくありません。

これから幾つかのことについてお話したいと思います。私がどこで学習者に会って

も、きっとあることについて話をすると皆さんは既に分かっています。つまり、皆さんに本を多く読み、法を多く勉強してほしいということです。私がきっとこの話をすると皆さんは分かっているにもかかわらず、私はやはりそれについてお話します。なぜならば、大法の中で向上したければ、本を読み法を勉強するのは極めて重要なことだからです。今日私が伝えているこの大法をごく普通の気功と見なしてしまえば、大間違いです。健康な体を手に入れたければ、病院に診てもらうか、その他の医療手段に頼ればいいのです。あなたがあなたの健康だけを考えているのであれば、病院に治療してもらえばいいのです。私は病気治療をしません。私は皆さんに修煉という正しい道、光り輝く道を歩むように導いています。大法を利用してお金のために病気治療しようと思うなら、それはいけません。私は皆さんを最も純粹で清らかな道に導いています。真に上を目指して修煉したければ、法を勉強し続けなければなりません。

物質と精神が同一のものであると私は説きました。全世界の思想界において、長く物質が第一か、それとも精神が第一かについて議論されています。人間が頭を動かし、何かを考えている時に生じた考えそのものが物質の表れであると私は多くの例を挙げて皆さんに説明しましたが、それは精神そのものではありませんか？ つまり、精神と物質は同一のものです。宇宙全体において、最もミクロから最もマクロまで、最も小さいものから最も大きいものまで、全ての物質の粒子に、ある特性が存在しています。それは真・善・忍と言います。真・善・忍という宇宙の特性は異なる次元の宇宙の中の全ての全てを制約しています。物質がこういった精神的な特性の集合からなっているため、精神と物質は同一のものなのです。

一部の人々にこのような間違った認識があります。つまり、気功を練習する時に気功だけをやれば十分であり、心性を高める必要はなく、本を読む必要もないということです。これは私が皆さんに教えようとする最も肝心な問題です。そういったやり方では永遠に向上することができず、気功の幾つかの動作を鍛錬するだけで病気を治すこともできません。これは中国大陸では多くの普通の人々でも知っていることです。法を勉強せず、本を読まなければ、その中の道理を知ることはできません。また、あなたの道徳を高め、あなたの心性を好転させ、良い人間、更に良い人間になるようにすることはできません。そのため、あなたは病気にかかることがあります。人間はこの状況なので、病気にかかることがあります。常人を超えた時になると、病気にかからなくなります。幾つかの動作を練習するだけでは、常人を超えることはできません。その法理を本当に分かり、あなたの考えと境地が高まり、更に良い人、常人を超える良い人になったら、あなたは超常的な人間になり、普通の常人がかかるような病気にかからなくなるはずです。このような道理です。人間が更に良い人になり、現在の普

通の常人を越えてからはじめて、本当に病気にかからなくなると先ほどお話ししました。しかし、修煉して更に高い境地に到達しようとしたら、これより更に厳しく要求しなければならぬのではありませんか？ 病気がなくなったら、即ち高い境地の修煉者になったとは言えません。それはただ、常人の道德水準を超えた人になっただけです。私は皆さんに常人を超える人、更に基準の高い人、つまり更に良い人で道德が更に高尚な人になって欲しいのです。このようにしてはじめて、修煉して高い次元に達することができます。

現在、華人以外のその他の民族の学習者は法の勉強を重視しておらず、あまり理解していません。先ほどの私の話を聞いたら、分かったかもしれません。気功の手法は修煉の補助的な手段に過ぎず、決して決定的な作用を働くものではありません。心性が向上せず、境地が更に高いところまで高まっていなければ、いくら動作をやっても向上することができません。心性がそれほど高い基準に達した時、あなたという人間はやっと向上することができ、病気がなくなるのです。更に高い基準、厳しい基準で自分に要求する時、ようやく常人を超える人間になることができます。その時になると、あなたは既に常人ではなくなります。人間が常人社会において、考えていること、行っていること、やっていることを皆さんも目にしましたが、全て自分のため、自分の身内のためのものであり、極めて利己的で、ひいては利益ばかり図るものです。現在は道德が非常に腐敗堕落している時期です。あなたは常人と同じで、ただ動作をやるだけで病気が治ると思っていますか？ 全くあり得ないことです。常人と同じで、動作をやるだけで超常的な人間になれるのでしょうか？ 決してあり得ないのです。ですから、必ず本を読まなければなりません。あなたの精神の境地、考えがそれほど高い基準に達していなければ、病気が治ることもなく、高い境地に到達することもありません。これが何故、私が皆さんに本をよく読むようにと言ったことの理由と本を読むことの重要性です。

法は皆さんの異なる次元での向上を指導することができます。『転法輪』という本は、系統的な皆さんの修煉のための本であり、極めて重要なのです。修煉者がどうかに関わらず、『転法輪』を読めば、どのように人間として振舞うべきかが分かるはずです。今日の人類は如何なる道德基準にも制約されておらず、伝統と古来の觀念に逆行しています。人間は目の前の現実にとらわれればとられるほど、人間の本質、最も先天的で最も良いものを放棄していることとなります。道德に制約されていない人間は思うように行動してしまう恐れがありますが、それではいけません。人類の腐敗堕落が原因で、人類は既に非常に危険な境地に晒されています。これからの説法の中で私はこれらのことをお答えします。

次に幾つかの具体的なことについてお話します。常人の中で修煉している時、往々にして多くの執着心を取り除くことができません。これから修煉の中の具体的なことに言及します。多くの人はどうしても自分の執着を放棄することができません。甚だしい場合、自分の執着で心が掻き乱され、理性が明確でなくなったにも関わらず、本人はまだそれに気づかないのです。千百年来、修煉は一体どのように修めるべきなのかを本当に説明した人はいませんでした。全ての人は修煉の時に座禅することを知っています。中国の田舎の年配の女性はいつもオンドルの上に座りながら、服を作ったり靴を作ったりしていました。修煉がそんなに簡単なものであれば、彼女たちは神になっているはずですが。この動作はただの補助的な手段です。煉功せずに座禅だけをすれば、全く話になりません。なぜなら、修煉の要素は全く入っていないからです。ですから、修煉の中で、皆さんに法理を分からせ、本を読むようにと言ったのは、あなたを更に高い境地まで向上させようとしているからです。どのように向上するのでしょうか？ 常人の中の良くない考えを放棄し、人と人との間の闘争心を放棄することです。僅かばかりの利益を得るために、他人を傷つけ、少しばかり得たら嬉しくてたまらず、少しばかり失ったら辛くてたまりません。そのため、ろくに食事や睡眠をとれず、様々な病気を抱えるようになりますが、なんと辛いものなのでしょう！ 人間はそのために世に生きているのでしょうか？

皆さんは既にこのことに対して明確な認識を持っているのに、なぜ本当に修煉者のように自分の執着心を放棄することができないのでしょうか？ 正々堂々と修煉者として振舞ってください。法を正す修煉者はまず殴られてもやり返さず、罵られても言い返さないようにしなければならぬと私はいつも言っています。それでは、皆さんは修煉の中でトラブルにぶつかった時、何故その心を放棄することができないのでしょうか？ 気に障るようなことを言われた時、何故機嫌が斜めになってしまうのでしょうか？ 不機嫌になった時、心の中で修煉と向上の機会を排斥しているのではありませんか？ 常人と同じような喜びを得たいと思っているのではありませんか？ それでは、あなたは常人ではありませんか？！ こういう時に「私は何故不機嫌になったのか？ 人に何かを言われて不機嫌になった時、自分は何かを求めているのではないか。常人の中で誰もが私にやさしく、気持ちよく過ごしたいと求めているのではありませんか」と考えるべきです。それでは、あなたはどのように向上するのでしょうか。常人のものを何も取り除かなければ、どのように向上するのでしょうか。ですから、向上することができません。これらのもの、人間が放棄できない執着を真に放棄すべきです。

しかし、皆さんが今日修煉しているこの大法に関して、私は既に現在の人類社会、常人社会で働く人々がいかに修煉するかを十分考慮しました。ですから、大法を修めても、自分の仕事、商売、全ての家庭生活と社会活動を持つことができます。大法の常人社会での広がりや修煉方式はあなたの修煉に影響することはありません。この点について、私は既に十分考慮しました。私が伝えた大法は人心を真っ直ぐ指すもので、物質利益の中であなたの心を取り除いていますが、本当に物質利益を失うことはないかもしれません。何故ならば、物質そのものは実は何も表すことができないと私は見えています。家に巨万の財産があって、家が金のレンガで建てられていても、あなたの心は金銭のことを思っておらず、非常に淡泊であれば、これは既に金銭に対して執着がないということになります。つまり、大法が求めているのは人の心の変化であり、あなたに物質を放棄させることではありません。もちろん、人の心を試練する際、必ず厳しい試練が現れます。あなたの物質を求める心がどれほど強いのか、何を重く見ているかを見るのです。ご存知のように、大法弟子の中で、商売する人、大きな商売をする人までいます。彼らは一人の修煉者であり、自分の仕事環境において皆、良い人で、嘘をつかず、人を騙していませんが、商売は非常にうまくいっています。彼らは常人のように、寝る時も食事する時も落ち着くことができないほど、商売に力を注いでいますが、商売を成功させています。特に、現在この不景気の中で、ますます修煉者が常人との違いを表しています。自分の修煉の基準に達した時、このような超常的な現象が現れます。

先ほど、執着心が修煉を阻害しているということをお話ししました。多くの学習者がトラブルにぶつかり、心が穏やかでなくなった時、実はこの時あなたは常人を相手に怒っているということを考えていません。皆さん考えてみてください、佛、神のような偉大な覚者は人間を相手に怒ることがあり得るでしょうか？ 決してあり得ません。なぜならば、佛、神は人間の次元にいないので、常人の情を持っていないからです。なぜ、自分を常人と一緒にするのでしょうか？ あなたは常人と同じように、トラブルに対処している時、既に常人と同じレベル、同じ境地におり、つまりあなたは既に常人の中に置かれてしまったということです。常人と同じでなくなった時になると、常人から抜け出したことになります。もちろん、その時の現れは寛容で度量があるのです。常人からこのように見られます。実はそれは修煉の中での皆さんの心性の所在の現われです。ですから、如何なる環境においても、如何なる状況においても、トラブルに遭った場合、善良の心、慈悲の心をもって全てに対処すべきです。自分の敵を愛することができなければ、圓滿成就することはできません。(拍手) なぜある普通の人間があなたの気に障った時に、あなたは相手を許すことができないのでしょうか？！ なぜかえって、常人のように相手と言ひ合ひ、争うのでしょうか？ 学

習者同士の間も同じではありませんか？

道理を皆さんに説きましたから、皆さんも分かったのです。私が皆さんに教えたのは法理であり、私が皆さんに示し表したのは、他でもなくこの法なのです。どこまでできるかということになると、全て皆さん自分自身の修煉次第です。もちろん、私は皆さんを助けることができます。この助けは多くの場合、常人社会に現れず、多くの人に見えないのです。修煉の中でこの法をしっかり勉強することは極めて重要なのです。しっかり法を勉強することができれば、最も悪いものをも含むあなたが執着して放さない心を取り除くことに役立ちます。

自分の観念を自分としないてください。多くの人は法を読む時に、観念を抱きながら読んでいます。「この部分が良い。あの部分は理解できない。この部分は良くないと思う」という状況です。皆さんに教えますが、自分が賢いと思い、自分の判断が正しいと思っていますが、実はそれは大間違いです。なぜならば、あなたの考えは常人社会で築かれたものであり、あなたの善悪を量る基準は常人の基準であり、決して常人を超えていないため、あなたに法の本質の所在を見出すことはできません。自分の執着心があなたが法を得ることを妨げています。自分が良いと思っている部分を選び出して読んでいますが、あなたは真に修煉しているではありません。なぜならば、良くないと思った時、または読みたくないと思った時、紛れもなく後天的に形成された良くない心と考えが作用しています。しかし、それはあなたの本当の自分ではありませんが、それをあなたは自分だと思ってしまいました。

なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください。子供が生まれた時、如何なる常人の観念もありません。六歳以下の子供の場合、私の一言で天目を開かせることができるとお話ししたことがあります。なぜでしょうか？ 子供に常人社会の観念のようなものが形成されていないからです。子供は純粹で清らかで、宇宙の真善忍という先天的な基準と一致しているからです。常人社会で一旦経験を積んでしまい、頭に杵ができてしまった時、老練で経験豊富であるなど聞こえのよい言い方がされますが、実は既に自分を悪くしました。これらの観念があるからこそ、あなたは宇宙の真相、本質と宇宙の真理と相容れなくなりました。これらのものが後天的に形成されたものなのに、どうしてあなたであり得るのでしょうか？ 返本帰真とはどういうことなのでしょうか？ 自分をきれいに洗い、自分の先天的で最も純正で、如何なる観念もない状態に戻るといことです。それこそ最も聡明になり、世の中の全てを正しく見ることができます。あなたに如何なる観念もない時になると、全てはあなたの眼中にあり、世の中の全てを一目見れば直ちにその真実が分かることができます。これが智慧なの

です。枠をもって物事を見る時、あなたは自分の枠に嵌められてしまいますが、その枠は真理ではありません。自分の知的レベルが高く、自分の判断基準が正しいと思っているかもしれませんが、実は正しくありません。私がこのように説明しても、あなたは直ちに私の見方を理解し認めるとは限りません。しかし、本当に心を放下し『転法輪』を読めば、この本が一体何なのかが分かるのです。

なぜ、中国と全世界にこれほど多くの人が学んでいるのでしょうか？ 中国だけでは、一億近くの人々が学んでいます。多くの人々は科学者、知的レベルの高い知識人、社会学者、思想家、哲学の研究者、高官であり、海外において、多くの博士、修士、教授が学んでいます。彼らは皆頭が悪いのでしょうか？ 特に中国という社会で、人々は多くのことを経験し、ある思想を信仰したことがあり、文化大革命も経験し、何かを崇拜したこともあり、多くの教訓を得たのです。彼らは何でも経験しました。このような人たちに盲目的に何かを信じさせることはあり得るのでしょうか？！しかし、彼らはなぜ法を学ぶようになり、しかも法に対してそれほど堅い決意を持っているのでしょうか？ このこと自身は既に答えているのではありませんか？ 私は皆さんに良い人になり、更に良い人、超常的な人、健康的な人、更に高尚な人、圓滿成就に至るまでの人間になるようにと教えているからです。これは私李洪志の二言三言で理性を失ったかのように人々を私に従わせることのできることはありません。ご存知のように、大法は緩やかな管理形式をとっており、学びたければ学ばばいいのですが、学びたくなければ元のところに戻ればいいのです。私は全く気にしていません。如何なる縛りも組織形式もなく、あなたから一銭も取りません。なぜ皆さんはここに集まっているのでしょうか？ 追い払われてもここから出て行かないのです。彼らは自分の考えを持っていない人間なののでしょうか？ 理性がないのでしょうか？ 一部の人はなぜ心を放下して本当にこの本を読むことができないのでしょうか？ 李洪志が何をしているのかを見てみたらどうですか？ なぜ世界中にこれほど多くの人がこの本を勉強しているのでしょうか？ 読んでから、私が何をしているのか分かるようになります。

この法を伝え始めた当時、私が最も懸念していることがあります。ご存知のように、今日の人類社会において、如何なる宗教も人々の心、人類の道徳を元に戻らせることができません。このことは宗教にいる人間さえ分かっています。全く為す術はありません。これだけではなく、人類の道徳を元に戻らせ、人々の道徳を再び高尚なものにし、更に人々を元に戻り圓滿成就させることのできる学説、道理は、現在の世の中にもはやありません。世界中を探してももうありません。このような状況であれば、人間は既に非常に危険な状態に瀕しています。今日私が伝えた大法が人々を済度するこ

とができなければ、人類はもう助からないのです。なぜならば、宇宙の中で宇宙を作り出す法より高い法はもうありません。人間に正念がない時、道徳による束縛がない時、どんな悪事でも敢えてやりかねません。しかし、神はそれを許さないのです。皆さんは宗教、または予言、預言者、或いは本からいくらかの情報を得て、人類が災難に見舞われると聞きました。皆さん考えてみてください、人類がこのように腐敗堕落していけば、危ないではありませんか？ 神が人間を懲罰しなくても、人間は殺しあうようになります。実は人間は既に自らを壊滅させており、平和な状態下で、知らないうちに自らを壊滅させています。科学技術の発展による汚染は自然環境を破壊し、将来全ての水が全部汚染されてしまい、人類の技術で水を元のきれいさに戻らせることができません。食べ物も化学肥料で栽培されたものです。皆さん考えてみてください、このまま進んでいけば、人類に変異が起こります。体形、外観まで変異が起こります。もし人類が人間を複製するのであれば、人類は本当に自ら自分を壊滅し始めたのです。人間の皮を被った宇宙人は大量に複製され、人間の体を占拠するのです。未来の人類はこのような人間からなり、彼らは今を上回る勢いで人類を複製し、最終的に完全に人類に取って代わります。

もちろん、私には世の中の全てのことを見て取ることができます。私は人類の全てのことを説き明かすことができます。現在私は人類のこれらの問題を解決するために法を伝えにきたものではありません。私は修煉者が真に法を得て向上できるようにするためにこれらのことを説いたのです。これは私がこのことを行う目的です。

先ほどのことに続いて、私はもう一つの具体的な問題についてお話します。修煉の中で執着心を抱いて放さない人がいます。そのため、トラブルがますます激しくなり、修煉の中で乗り越えるべき関がますます高くなり、乗り越えられなくなりました。在席の中にこのような人がいます。それから、その人は反対の立場に立ってしまい、大法を恨み、ひいては私まで恨んでしまいます。他の人はなぜあなたのようにならなかったのでしょうか？ この一億人の人は皆バカなののでしょうか？ なぜこのようになってしまったことの原因を考えないのでしょうか？ 大法を学んだ人に私は正々堂々とした人間、良い人間になるように、悪事を働かないようにと教えましたが、相変わらずギャンブルをやる人がいます。負けたら、大法のせいになります。ギャンブルをしてもいいと私は教えたのでしょうか？ それと反対に、私はギャンブルをしてはならず、良くないことをしてはいけないと教えました。

また、大法を修煉して突然思いがけない傷害を受けましたが、それも大法のせいにする人がいます。考えたことがあるのでしょうか。私は『転法輪』の中でこの例を挙

げました。つまり、ある人が大法を学んでから、ある日急に倒れてしまい、脳梗塞のような症状で、片方の体が言うことを聞かなくなり、脳も片方が麻痺してしまいました。しかし、次の日にその人はベッドから降りて歩けるようになり、一週間後にほぼ回復しました。そして、この人は煉功点で、「私は大法を修煉して、半身不随になりました。もうこれ以上修煉してはならない」と学習者に話しました。皆さん考えてみてください、もしこの人が大法を修煉していなければ、半身不随はこんなにも早く治るものでしょうか？ 半身不随はどういう症状なのか皆さんもご存知だと思いますが、この人はそれを大法のせいにしてしまいました。あなたが難に遭って、先生が私を守っていないと言う人がいます。もし私が守ってあげなければ、あなたの手足が痛められるのではなく、あなたの命まで危険なのです。このことはご存知でしょうか？ 私があなたの難をここまで減らしたのに、あなたはかえって大法を恨むのです。人間はこのような無知の状態下で非常に濟度しにくいのです。自分が宇宙で作った借りなのに、それを返したくなく、どんな難にも見舞われることなく、何の苦勞もせずに全部私にそれを肩代わりしてほしいと思っています。これが修煉なのでしょう？ これでああなたの心を高めることができるのでしょうか？ これらの問題にぶつかる時に、正念をもって対処することができなければ、どうやって修煉するのでしょうか？ 今後の道をどのように歩むのでしょうか？ 私が皆さんのために多くのことを行ったにも関わらず、あなたは大法を恨み、私を恨み、ひいては私を罵っています。もちろん、私は誰も怨みません。私はただ皆さんに法理、ある道理を説いています。私を罵ったとしても、私はあなたに不満を持つことはありません。なぜならば、私の心は常人の中にありません。私が良いと言われても、悪いと言われても、私のことが神と言われても、人間と言われても、私は心が動じることはありません。なぜならば、如何なる常人の心も私を動かすことができないからです。皆さんが私のこの状態に達することができれば、圓滿成就までもう遠くありません。

私はただ例を挙げただけです。修煉をする時、心を正しく扱うべきです。もちろん正しく扱うべきと私は言っても、あなたはそれができるとは限りません。私の一言でそれができるようになりますか？ あなたに正念を生じさせ、上を目指して修煉させることができる唯一かつ最も根本的なものはこの法です。一億人以上の人が修煉しており、全ての人が皆さんのように今日ここに来られて、私が皆さん一人一人に説明してあげるといふわけにはいきません。これはあり得ない話です。しかし、法は私が既に伝えました。私は更に皆さんのために責任を負わなければなりません。皆さんが真に修煉して向上してこられるように、私はある方法をとりました。つまり、私は皆さんに与えることのできるもの、皆さんに私のできることを全部法に織り込みました。後は皆さんがそれを得るかどうかわけです。ですから、皆さんに教えますが、私に会

うことができなければ、法を師にし、法を師にしてください。

続いてある小さな問題について触れておきたいと思います。つまり、修煉の中で極端に走る学習者がいるということです。突然何かを悟り、「ああ、このことが私の執着心を引き起こすから、それを捨てて処分しよう」。または、「ああ、この仕事が私の執着心を引き起こすから、仕事をやめよう」。「全てを避けよう」。皆さん考えてみてください、これは修煉と言えますか？ これは極端に走ったことではありませんか？ 私たちは常人の中で修煉しているので、最大限に常人の形式に合わせて修煉すべきだということを私はいつも言っています。これはただの一言ではなく、普通通りに仕事をしているからこの基準に達したということでもありません。よく考えてみてください、それは皆さんの修煉の各方面に現れてくるものです。常人と同じように常人社会で修煉することができなければ、常人社会という形式を破壊することになります。常人社会は良くありませんが、それも宇宙大法が人類という次元の生命のために切り開いたものです。常人社会が良くないからこそ、人々はここで修煉することができます。常人の悪さに染められてしまうのか、それともあなたはここから脱皮し、蓮の花のように泥沼から出て、非常に神聖かつ純潔になるのでしょうか。くれぐれも極端に走らず、誤って法を悟らないでください。極端に走って、これも要らない、あれも要らない、仕事を捨てようと思った時に、実はあなたは既にもう一つの執着に入ったのです。執着を恐れること自体は既に執着となり、つまり執着を恐れる執着です。

これくらいにしましょう。あとは学習者が体験を発表します。在席の中に記者がいますが、多分遙々遠いところから駆けつけてきたと思います。私は皆さんの気持ちをよく分かっています。私李洪志は常人の中で名を広げたいと思っていません。私はただ大法を修煉している私の弟子、学習者のために責任を負いたいだけです。私がオーストラリアに来たのは、彼らに修煉の中の問題を解答し、彼らが向上できるようにするためです。しかし、皆さんが来た以上、私も皆さんが何の収穫もないままで帰って欲しくありません。今まで、記者が『転法輪』を読み終えていなければ、私は記者に会わないようにしていたのです。私たちに対してある程度の理解があってから、はじめてあなたと話をします。なぜならば、私が伝えているものはあまりに大きいから、二言三言で説明できるものではありません。あなたが知りたいのは常人社会の中の問題で、私はそれに答えたくありません。なぜならば、私は現在、全く常人のことや社会の中のことに関わっていないからです。しかし、皆さんが既に来ました。ですから、今日ここで学習者の発表をよく聞いて、この二日間の法会を通して参加するようにしていただきたいのです。それから、私は皆さんに会い、皆さんも質問を出すことができます。この会議中には私は誰にも会いません。なぜならば、私に多くの片付

けなければならないことがあるからです。私たちの法会は学習者の向上を真の目的としており、決して形式的なものではなく、誰それに見せるためのものではありません。

(拍手)

それでは、皆さんは交流会を続けてください。私はここまでにします。明日私は皆さんに質疑応答しますので、今は私も学習者の発表を聞いてみたいと思います。

メモを出してください。今日の午後は主に皆さんに法を説明し、皆さんからの質問に答えます。しばらくの修煉を通じて、多くの問題は本の中から答えを得ることができます。しかし、皆さんはやはり師父に聞いたほうが安心だと思っています。皆そうと思っています。それなら、私は皆さんの思いを満たします。できるだけ出された質問にお答えします。それでは、始めましょう。

弟子：修煉し始めた時から遭った全ての難は按排されたものなののでしょうか？ それとも人為的な要素によるものなののでしょうか？

師：修煉の中で確かに修煉の道を按排しましたが、それを乗り越えられなかったのは人為的な要素によるものです。修煉は複雑なことなので、全てのことが同じようになることはありません。あなたに現れたことは他の人にも現れるとは限りません。同じことを同じように扱うこともありません。なぜならば、迷いの中で修煉しているからです。もし皆同じになってしまえば、迷いを破ることになります。皆どのようにすべきかを知るようになります。「ほかの人がこのように対処し、しかもうまく対処したから、私も同じようにします」という具合です。これは修煉とは言えなくなります。難は実は皆さん自身の業力によって形成されたのであって、生生世世に積んだ業力が皆さんの修煉を阻んでおり、皆さんの返本帰真を阻み、皆さんの昇華を阻害しています。他でもなく、この業力が作用しています。私はその一部を片付け、残りは皆さんが自分で片付けるために残してあげます。なぜならば、宇宙に「借りたものを返さなければならない」という理があるからです。どの世においても、悪事を働けば業力を積んでしまいます。次の世または現世のいつか、それを償わなければなりません。ですから、このものが作用しています。私はそれを難と呼んでいます。実は常人なら誰でもあります。常人が苦痛の状態で見舞われた病気と生活の中の困難もその人の難です。学習者の場合、私はそれを皆さんの修煉の各次元に配分しただけです。皆さんが修煉して関を乗り越え心性を高める際、それを利用しています。こういう役割です。常人はただ業力を償うために業力を償っているだけです。ですから、修煉という要素が含まれていません。しかも、常人はあるだけの業力を償わなければなりません。私たちの場合、修煉をしているので、難が大きすぎれば修煉できなくなります。ですか

ら、業力を減する必要があります。もちろん、それには条件があります。これは皆さんが既に知っていることで、法の中で詳しく説きましたので、ここで繰り返しません。

弟子：法を勉強する時の自分の速度と集団の速度が違うのですが、大丈夫なのでしょう
うか？

師：自分で法を勉強し、堅い決意をもって着実に修煉していくことができれば、それも素晴らしいと思います。しかし、ご存知のように、一人で家で非常に精進して法を勉強することはあり得ないし、あなたも常人社会に接触しないわけにはいきません。今日の常人社会の人はやりたい放題やっており、どんな良くないことをもやりかねません。つまり、如何なる道德の基準と道德の束縛もないということです。今日の人類社会は既にこのようになってしまいました。皆さんが社会で接触した人は皆常人社会の人々で、彼らが言ったこと、話したこと、思ったこと、行ったことは皆、今日の人類が行った事です。一人で修煉していれば、良い環境がなく、接触したのが全部このような環境であり、実はあなたはこの環境に影響されており、向上しにくいのです。以前話したことがあります、多くの学習者は修煉の前自分がまだ悪くなく、よい人だと思っていました。しかし、真に修煉してから、全くそうではないと気づいたのです。なぜならば、自分が良いと思ったのは自分を現在の既に腐敗墮落した人間と比べており、人類の道德が最も高尚だった時期、宇宙の特性と比べているのではないからです。

集団で煉功する場合、皆さんが集って話したことや、考えていることや、行っていることは皆、善の念に基づいており、どんなことをしてもできるだけ相手のことを配慮しており、非常に純粹で清らかな環境で、穏やかな浄土なのです。この環境において、一人の修煉者として、あなたはこの場にある慈悲という力量に影響されるに違いありません。ですから、私が皆さんに集団で煉功するようと言ったのは目的があるのです。この環境で接触したのは全て良い人で、皆さんの言動と行動は常人社会の人の言動とは違います。ですから、この環境を失ってはなりません。しかし、大法を学ぶ人が多くない地区もあり、一人または二人が学んでおり、良い環境を持っていません。こういう場合、自分で頑張るしかありません。確かにこのような学習者がおり、本当に黙々と学んでおり修煉しています。しかも精進しています。本当に素晴らしいのです。ここで話したのは、集団で修煉する環境がなくてはならないということです。それは非常に良いので、それを失わないでください。この環境も人々を精錬しています。

弟子：学習者と交流している時、男性の学習者は理性から大法を認識することを重視

し、女性の学習者は感性から大法を認識することを重視していると感じました。もしこれが普遍的な現象だったら、いかにお互い参考しあって、早く向上することができるでしょうか？

師：これについて私はそうは思っていません。法を良く認識している学習者は皆、理性から法を認識することができます。本をあまり読んでいない人、つまり精進の足りない人、または法を学び始めたばかりの人は、感性から法を認識しがちです。この面において男女の差はありません。現在の女性もなかなかのもので、自分の考えを持っており、能力もあります。このように見てはいけません。しかも、女性の大法弟子の根基と能力は人間の表面で判断するものではありません。

弟子：二回世間法を修煉することをどのように理解するのでしょうか？

師：学習者のそれぞれの状況によって学習者の修煉を決めますが、これはただその表れの一つです。十回や八回である可能性もあります。羅漢という境地で圓滿成就すれば、つまり、あなたは世間法の中で一回だけ修煉すれば良いのです。更に高い次元を目指して修煉するならば、修煉の中で繰り返して修煉し、絶えず修煉する必要があります。敏感な人がいますが、現象が更にはっきりしている人もおり、もっと知っているかもしれません。

弟子：法を勉強する過程で、法理を理解しなければならないと同時に、知識を探究するという執着に陥ってはいけません。どのように対処すべきなのでしょう？

師：法の上で修煉の意義を認識するようになったら、分かってきます。法の上で法を認識することができるようにするには、本を多く読むしかありません。この大法は全ての謎を破り、全ての人心を正すことができ、本を読みさえすれば解決されます。多くの問題に対してその答えを得られないと感じている時、実はそれはあなたが答えを得ようとしていないからです。なぜならば、本を読み法を勉強すれば、如何なる問題もが解決されます。ご存知のように、現在法輪功の学習者が一億人であると政府側は公に認めています。それぞれが私に質問し、私がそれに答えるならば、そのような機会はありません。ここに座っているオーストラリアの学習者は現在、私に会うことができますが、中国大陸の学習者は私に会うことができません。実は私は中国大陸に滞在することが多いのですが、彼らは私に会うことができません。なぜならば、私は彼らに会いに行くことができないからです。一旦あるところの学習者が私の所在を分かったら、学習者はそれを全国に伝え、誰もがそれを知るようになり、皆私に会いに来るのです。中国という社会は他の社会と違って、私たちを理解していないので、法に損失をもたらすかもしれません。ですから、私は皆さんに会うことができません。このような状況下で、私は皆さんの修煉に責任を持ちたいのですが、どのように責任を

持つのでしょうか？ 昨日もこの話をしましたが、つまり私は皆さんに与えることのできる全てをこの法に織り込んだのです。本を読みさえすれば、何でも得られます。『転法輪』を既に二百回あまり読んだ学習者がいますが、まだ読み続けています。毎回毎回違います。なぜならば、『転法輪』は修煉のための本であり、中に異なる次元の内涵が含まれています。一回目の時に出てきた問題は、二回目読む時に全て解決され、それを分かるようになります。しかし、二回読み終えた時に、また新しい問題が出てきますが、三回目読む時にそれも同様に解決されます。絶えずこのように修め、絶えずこのように読み続ければ、あなたは絶えず精進しているのです。その上、大法の煉功という補助的な手段を加えれば、あなたは向上の中にあります。「先生、私は圓滿成就できますか」と私によく聞く人がいますが、「私が先ほど言ったようにすることが出来ますか」と私は聞きたいのです。実は自分が圓滿成就できるかどうかという話を自分に聞くべきなのです。

弟子：高い次元まで修煉し、身体の細胞が全部高エネルギー物質に取って代わられますが、その時になると、新陳代謝もなくなるので、飲食する必要もないのでしょうか？

師：全ての人身が全部高エネルギー物質に転化した時に、このようにすることが出来ます。体の表面がまだそうになっていない時、このようにすることはできません。ご存知のように、気功を煉る時に気を蓄え、気を発することができます。本当に高い次元を目指して修煉している場合、気ではなくなり、気は何ものでもなくなり、更に高い次元のエネルギーが現れます。私はそれを功と言っていますが、実はそれは更なるミクロ的な精華した物質です。この精華した物質はあなたの体に蓄えられ、体の全ての細胞にこの高エネルギー物質が蓄えられています。更なるミクロ的な物質はもちろん制約性を持っています。そうしていくうちに、この高エネルギー物質はますます多くなり、ますます飽和状態になります。あなたの体の細胞はそれに同化されるのではありませんか？ あなたの細胞までこの高エネルギー物質に同化されたら、あなたの体はまだ常人と同じなのでしょうか？ このような身体は他の空間から採集してきた高エネルギー物質によって構成されます。それなら、まだ常人のような新陳代謝があるのでしょうか？ それは存在しなくなります。その時になると、食べなくても、飲まなくてもいいのですが、あなたが食べたり飲んだりできなくなるということではありません。あなたに本当に必要なのは、私たちのこの空間のものではありません。人間の食べ物をあげても、あなたはそれを欲しいと思わず、見るだけで気持ちが悪くなります。あなたに本当に必要なのは他の空間の更に高級な物質です。

弟子：広州の全ての学習者は先生に会いたいと思っています。広州の全ての学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。（拍手）

弟子：オーストラリアの修煉者は一般的に言えば、レベルが低いのでしょうか？

師：私はこの話をしたことがありません。修煉は皆さん自身にかかっています。実は、皆さんがどの境地まで修煉したのかは、現在皆さんはそれを知ってはいけません。一旦知ってしまえば、皆さんに強大な執着が現れ、それが障碍となり、皆さんの修煉の道のりを遮ってしまいます。ですから、分からなければ、この執着もありません。

弟子：『精進要旨』の中で、修煉は厳粛なものであり、常人の反省と悔い改めではないと先生はおっしゃいました。自分が反省と悔い改めの段階を徘徊していると感じており、なかなかそれを乗り越えることができません。内心に向けて探すことと反省との間にどのような区別があるのでしょうか？

師：修煉の向上を反省と悔い改めることと同様にしてはいけません。しかし、自分を反省し、悔い改めることができれば、このこと自体は修煉の一部分です。こういった関係です。

ご存知のように、キリスト教やカトリック教は修煉という言葉を使いませんが、実はそれも修煉であると私はいつも言っています。文化の違いで、イエスとエホバは修煉という言葉を使いませんでした。なぜならば、彼らの文化にこの概念がなく、考え方も違うからです。それでは、皆さん考えてみてください、それは修煉なのでしょうか？ 人々は教会堂に入ったら、非常に敬虔な心で彼らの主、イエスに対して懺悔をします。間違ったこと、しっかり行うことができなかつたところがあれば、今後それを良くします。それで、それからその人の行動は良くなります。また間違いがあるのに気づいたら、もう一回懺悔し、更に高い基準で行います。皆さん考えてみてください、修煉は実質上、人の心を修めることです。彼らは心を修めているのではありませんか？ ますます良くなり、行いがますますよくなる時、彼らの天国世界が要求している基準に達するのではありませんか？ それは圓滿成就ではありませんか？ ただ文化の違いによって、功は説かれておらず、東洋文化のように様々な話がされませんでした。言葉も簡単で、要求も簡単です。ただ信じること、神に対する揺ぎ無い信念を言っただけです。

弟子：生死の関にいる修煉者がいますが、本人がはっきり認識していないので、彼と一緒にいる修煉者はどうすればいいのでしょうか？

師：「生死の関にいる修煉者がいます」、この話はあまり正しくありません。「本人がはっきりしていない」、その人が修煉しているとは言えません。彼は実は精進してお

らず、感性から法に対する認識と人間の情熱で修煉しており、本当に理性から法を認識していません。本当に精進して着実に修煉しておらず、本当の修煉ではありません。ご存知のように、修煉は厳粛なものであり、私はこのような人を修煉者として認めません。この世に修煉より厳粛なことはありません。業力に満ちた人間、汚い考えが頭に溢れている人間が大覚者になろうとしており、圓滿成就まで修めようとしていますが、これはなんと厳粛なことでしょう。修煉者が人間の全てを放棄する過程は、それもまたなんと偉大なことなのでしょう。ですから、皆さんは厳粛に修煉に対処せずにいられるのでしょうか？ 一つ一つの関を皆さんはしっかり乗り越えずにいられるのでしょうか？ 無頓着で、信じているようで信じておらず、修めているようで修めておらず、自分に対して責任を持っていないのですが、このような人は圓滿成就することができるのでしょうか？ そうではありませんか？ 大法の心性に対する要求にしたがって行動することができなければ、それはいけません。常人には病気があるので、生老病死は常人の規律です。

弟子：大学生でありながら修煉する場合、どのようにしたら精進し続けることができるのでしょうか？ 大学に進学せず、就職すればもっと良い修煉環境があると言っている弟子がいます。

師：それは大間違いです。真理を目のあたりにし、衝動的になる人がいますが、私はこの気持ちを理解しています。特に私が今日大法を伝え出し、多くの天機を説いたから、法を得たばかりの時に衝動的になり、修煉者と常人の関係を正しく扱うことができなくなります。最大限に常人社会の形式に合わせて修煉するという事は、簡単な一言ではありません。これは法なのです！ 多くの方面に貫かれています。将来全世界でもっと多くの人々が大法を学ぶようになり、数十億の人が学ぶようになると私には分かっています。この法を伝えた当時、どういう結果になるのかと私には分かっていました。それほど多くの人が学びに来て、皆仕事をせず、学校に行かなければ、それでいいのでしょうか？ ですから、法を伝える前にこのことを考えたのです。常人社会でいかに人々を修煉させるのかは非常に重要な問題です。ですから、あなたの仕事、商売、勉強などはあなたの修煉に影響することはありません。今までどおりに仕事をし勉強をすべきです。あなたの仕事と勉強は決して修煉ではありませんが、あなたが一人の修煉者として、向上してからの心性はあなたの仕事と勉強に反映されます。こういった関係です。ですから、大法の学習者はどこにおいても、本当に良い人だと言われます。これは最大限に常人社会に合わせて修煉する時に現れてきた状態です。これを成し遂げることができなければ、私の言った通りに、師父の要求どおりに行動しなかったということになります。私の言ったことさえ聞き入れなければ、なぜ私を師父と呼ぶのでしょうか？ 私は皆さんに良くない道を教えることはありません。こ

の法を伝えだした以上、私は法に対して責任を持たなければなりません。実は私は皆さんを大事にしていますが、私は皆さん自身より皆さんのことを大事にしています。なぜならば、皆さんは師父と共にしており、未来の最も偉大な神であり、新宇宙の模範、人類の未来の希望であるからです。法を学んだら常人のことをしなくなるということくれぐれもしないでください。大法が許さないことをあなたがしなければ、それはあなたの悟性がいいのです。もし常人の正常な仕事をしなくなれば、それは問題があります。それは歓喜心による執着が引き起こした問題です。

弟子：楽山の子供弟子は師父にご挨拶を申し上げます。北京の大法弟子は先生に最も崇高な敬意を表したいと思います。大連の弟子は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：『転法輪』第八講の「煉功するその人が功を得る」というところで、「あなたの体のあらゆる信息や、あらゆる霊体、あなたの細胞がみな功を伸ばす」と説いてありますが、ここで言う信息と霊体は何を指しているのでしょうか？

師：あなたの全ての細胞は皆、あなた本人の形象をしており、更にミクロ更にミクロ的などころまでずっとそうなのです。私が法の中でこの問題を説いただけではなく、現在の人類もこのことに気づきました。科学者は動物の細胞をスライスし、パソコンに送ったら、モニターに現れたのは動物の形象をしている細胞です。しかも全く同じです。しかし、見かけは細胞に見えます。つまり、煉功をしている時、あなたの体の全てはそれにしたがって変化していますが、それは霊体ではありませんか？ 間違いなくそうです。しかも、あなたが修煉してできた全ては皆、生命のあるもので、あなたの功、あなたの功の全ての粒子、異なる法器、功能、神通などもそうです。それだけにとどまらず、圓滿成就する人は相当豊富なものを持って、はじめて大覚者になることができます。ですから、それらのものは皆生き物で、生命があり、能力のあるものです。この意味です。

弟子：双子の二つの主元神は同時に輪廻転生したのでしょうか？

師：もちろんそうです。決して一つの元神が二つに分かれるものではありません。

弟子：アフリカの一部の地区は一夫多妻制ですが、彼らに洪法してもいいのでしょうか？

師：いいです。誰もが学ぶことができます。社会制度の違いによって、人々の道徳、理性、観念に対する認識が違います。ですから、差異がとても大きいのです。これは彼らの修煉に影響しません。如何なる環境の中でも、如何なる階層の中でも、如何な

る人であっても、修煉することができます。ただ彼らが修煉するかどうかの問題です。

弟子：この空間にある体はただ宇宙にある膨大な身体の一つの粒子であるに過ぎず、粒子の大きさによって形成された空間が違い、形成された各空間にあなたの体があります。しかし、この空間はあなた一人のものではなく、宇宙の一部なのです。

師：そうです。この理解は正しいのです。あなたは個体の生命ですが、宇宙全体の中の一粒子、生命全体の一員でもあります。先ほどお話しましたが、あなたは個体の生命ですが、この境地での生命の全体であると言ってもいいのです。あなたの体の全ての細胞はあなたと同じ形象をしている独立した粒子であり、全体の一部でもあります。

弟子：中国古代の社会状態と古代の人々は現代より良いと先生はおっしゃいましたが、古代に争いや戦いもよくあったので、どのように中国古代の歴史を理解するのでしょうか？ 孔子が言ったように春秋戦国以前の三皇五帝の時代の古代社会だけが良かったのでしょうか？

師：古代社会はみな現代社会より良いのです。いずれの時期もそうです。これは人間と人間を比べています。実は人間のこの空間はもともと非常に良くないのです。宇宙の人類より次元の高い如何なる空間から見ても、人間のところは最も良くなく、汚く、宇宙の真相を最も見られないところです。ですから、もともと良くなかったので、今日人類は更に悪いのです。なぜならば、今日人間の観念は逆になったからです。私は人間を他の空間と比べているのではなく、それは天が定めたものです。私は現在の人を以前の人と比べて観念が逆になったと言ったのです。良いと悪いはみな逆になったのです。ですから、現在の人が悪事を働いても、それが悪事だと本人は分かっておらず、良い事だと思っています。利益ばかり図ると言ったら、それが有能だと言います。すりに遭ったら、すりが悪いとは言わず、自分をしっかり守らなかったというのです。これは観念が全部逆になったのではありませんか？ 現代人は古代が良くないと言っていますが、実は現代人は既に悪くなった観念で古代の人を量っています。多くの香港映画が描いた古代の殺し合いと殴り合いですが、それは芸術の手法であり、芸術の誇張です。長い数千年の歴史の中で、このようなことは取るに足らないほど少なかったのです。芸術は生活を越えなければならないと皆さんは知っています。

昔の人は「人を殴る時に顔を殴ってはいけない」と言いました。非常に簡単に聞こえますが、戦争の時自ら束縛し、やりたい放題にやっではいけなかったのですが、現在人は人を殴るときに専ら人の顔をたたいており、凶悪で悪辣で、如何なる束縛もなくなりました。人間は違ったからです。もちろん、なぜ古代に戦争があったのでしょうか？ 皆さんに教えますが、それは天が定めたのです。宇宙の法理が人間のこの

空間に定めたのは、武力で天下を征服し、王者が国を治め、勝者が英雄になるということです。次元の高い空間から見れば、これは良くないのですが、人間の逆となった理の中で、人間と宇宙の逆となった理に適応し、数千年来人類社会で作用しています。人間の業力が重くなった時、業を減する必要があります。ですから、天災人災と人間の戦争がやってきます。

弟子：『転法輪』を読む時、または先生の他の地区での質疑応答と説法を聞く時に、分からない言葉に対して、必ずそれを理解しなければならないのでしょうか？ 例えば、「自然に」、「必然的に」などです。

師：言葉の表面は普通、人間の認識と同じです。これらの言葉を詮索する必要はありません。皆さんは本を読む時に、くれぐれも言葉遣いを詮索しないでください。順序どおりに読んでいけば良いのです。しかし、自分が法を読んでいると分からなければならず、何を讀んだのかを知らなければなりません。法の内涵は表面にあるのではなく、その話にある他の認識と更に高い認識が分かった時は、つまり法理の内涵の表れであり、法が現れていることです。

弟子：鍼灸の医者として、はりをする時に患者の皮膚に接触することがあり、吸い玉で治療する時も患者の皮膚から多くの汚いものを吸い出し、業力が移ることがありますが、修煉者はこのような仕事を続けられるのでしょうか？

師：小心翼翼にならないでください。皆さんの社会での一切の行動はみな、常人と接触しているからです。例えば、座ったイスは他の人が座ったばかりのものですが、それに座りますか？ 他の人が触ったものに触りますか？ この間接的な接触も接触です。この社会は取りも直さず汚いもので、このようなものです。修煉者はあれこれを恐れる心を持ってはいけません。それでは、もう一種の執着が形成されます。あれこれを恐れる執着です。正々堂々として修煉してください。あなたの体から放出したのは皆、正法の光です。大法弟子の中に科学研究をする人が多くいます。ウイルスの実験をする時に、無意識のうちに手をウイルスに近いところに置いたため、ウイルスが全部死んでしまったことに気づきました。このような例は既にたくさんありました。つまり、大法学習者にもともと殺菌能力があります。気功の方法で治療しているのではなく、常人の医療方法で治療しているため、大丈夫です。少しの業力と接触したとしても、それも極めてわずかなもので、何の影響もありません。もし気功で治療していれば、それは違います。明らかにあなたは他の人ともものを交換しており、患者の病を取ってきて、自分の良いものを人にあげています。ですから、偽気功師は修煉したことがなく、金儲けに使いたいと思っていますが、実は自分自身を害しています。致命的に自分自身を害しています。人間はお金のために何でも敢えてやってしまいます。

自分自身を害しているにも関わらず、それを知らないのです。

弟子：私は既に二年あまり修煉しており、大法に対して堅い決意を持っており、ある程度理解しています。しかし、交流会の時に何を言えばいいのかわかりません。心の中で分かっていますが、言い表すことができないから、何も言いたくありませんでした。これは先天的に自己表現力が低いのか、それとも法に対する理解がまだ足りないのでしょうか？

師：これは法に対する理解の問題とは限りません。それぞれの修煉に異なる状態があります。

弟子：先に修煉を始めた人と後になって修煉を始めた人に違いがありますか？

師：ありません。先に修煉を始めたら、どうこうと言ったこともないし、後になって修煉を始めたらどうこうとも言ったこともありません。大法はまだ伝わっており、法さえ得ていれば、ひたすら修煉して下さい。あなたを圓滿成就することができなければ、あなたに修煉もさせません。次元の高さは修煉を始めるときの時間によるのではなく、それは自分で修煉するものです。

弟子：座禅の時、頭が連続して動いており、回っています。そのため、座禅の時、入静できず、かえって怖く感じました。これはどういったことなのでしょう？

師：二通りの状況があります。一つは、新しい学習者が本当の修煉者になる前に、以前他のものを習っていたり、または家で何かのものを祀っていたり、拝んだりしたことがあるからかもしれません。また、常人の中で良くないことをして、何かのものを招致してしまう可能性もあります。煉功の中で、もし本当に確固として大法を修煉していれば、私はそれを取り除きます。もう一つですが、修煉を始めて、初期の時に体が調整されますが、以前身体のどこかに病気があったから、その業力を消す時の反応かもしれません。二通りの原因があります。しかし、できるだけそれにしたがって動かないで下さい。どうしても制御できないとき、目を開けて煉功して下さい。あなたは今どうして動かないのでしょうか？ 現在のこの状態のまま煉功して、動かなくなったら目を閉じればいいのです。修煉者は大周天が通じれば動くこともあります。

弟子：米国ピッツバーグの大法学習者全員は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：大人が座禅する時に、子供がそばで寝てもいいのでしょうか？ このようにしたら、子供の主元神、副元神に影響があるのでしょうか？

師：子供が功を得られるかどうかの意味ですね。しかも、直接言わないのですが、執着心があるからです。一人が煉功すれば、一家全員が受益すると私は言ったのではありませんか？ 少なくとも、あなたが持っているエネルギー場は家族に有益なのです。なぜならば、あなたは正法を修煉しているから、持っている慈悲で和やかな力は全ての正しくない状態を正すことができます。

弟子：修煉がある程度の次元までいったら、もしいつも以前の修煉過程と業を滅するときの感じ方を他の人に話すと、その時の次元に戻ってしまうと言っている人がいます。

師：そんなことはありません！ 一人の修煉者として修煉の過程を話すのは、自分と他の大法弟子がこのような関を乗り越える時により良く乗り越えられるようにするためです。次元に何の影響もありません。もし、顕示心があれば、別のことです。話しても学習者はそれを聞きたくはありません。

弟子：物質と精神は同一性のものだと先生は昨日言われましたが、これは私たちの法の勉強と何の関係があるのでしょうか？

師：この質問を出した人はまだ学んでおらず、私が説いた法をまだ理解していません。それでも、私はあなたに答えます。ここは修煉ですので、先ほどあなたも聞いたと思いますが、修煉を通じて人の身体を変えることができます。この全ての変化はみな、修煉の中で修煉者の心性、考えの昇華によるものです。通常、人々は心性を精神範疇のものとし、精神と物質は関係ないと思っています。また、精神と煉る功とは関係がないと思っている人もいます。私たちはただ煉功をしているだけで、なぜそれらの道理を説くのでしょうか？

これが多くの人が煉功しても功が伸びないことの根本的な原因です。あなたに道理を分からせた時、あなたの考えを昇華させ、あなたの境地を高め、あなたに更に次元の高い理を分からせることができます。それはあなたが向上してからの思想境地であり、あなたの思想境地が所在する位置です。この基準に達した時、はじめて功が伸びてきます。この道理です。この道理が分からなければ、毎日煉功し、朝から晩まで煉功し、飲まず食わずに煉功しても、功は伸びません。しかし、本を読むだけで煉功をしなければ、あなたが大法弟子であるとも言えません。なぜならば、あなたはそれを理論として学んでいるからです。修煉は自分に修煉したい願望があり、圓滿成就したい願望を持ち、同時に修煉の行動もあってはじめて、修煉となるのです。これはあなたに表面のことを言っていますが、実は精神上的の向上はつまり功の向上です。なぜならば、精神と物質は同一性のものだからです。

弟子：『転法輪』を通読する時、何回か同じ状態が現れました。つまり、読んでいる時、頭が急に重くなり、眠くなりましたが、眠ってはいませんでした。目が本の中の同じ場所をずっと見ており、突然本から他の話が出てきて、それは『転法輪』の中の話ではありません。

師：あなたの思想業力があなたをひどく妨害しているのです。あなたに本を読ませず法を学ばせていません。あなたが眠くなり、寝てしまい、正念正覚を失うようにしています。ひいては、思想業力がはなはだしい場合、妨害を出現させます。あなたの頭の中で字を表します。大法を破壊する魔もこのようにすることがあります。ひいては考えの中であなたと喧嘩したり、あなたに話しかけたりして、法を勉強させないのです。これは明白ではありませんか？ これは思想業力または外来の妨害が作用しているのです。それはあなたに昇華させないのです。あなたが昇華すると、それらは消滅させられてしまうからです。私は皆さんの業を滅すると言いました。本当に滅されたら、本当に解体してしまいます。それでは、それらは承知しますか？ ですから、それらは必死に抵抗しています。これらのものを自分だと思ってしまうと、あなたは法を得ることができません。なぜならば、法はあなたに与えるもので、それらの業力に決して与えません！ ですから、それを克服し、いくら眠くても克服し抑制し、それを根絶すべきです。この関を突破したとき、つまりそれを消滅したときです。

弟子：多くのことに関して、何かを言えばすぐ間違ってしまい、何かをやればすぐ間違ってしまったと感じます。ですから、何も言えず行えません。しかし、周りの人は私があまりにも小心翼翼になっていると言っています。

師：私もそう思います。実はこれは真理を認識してから、人間の理が逆になっていると分かった時に現れた状態です。これは修煉者に向っていく過程での現れです。しかし、やはり正々堂々として修煉者として振る舞い、修煉すべきです。ただ修煉者の境地が現れることがあり、意識的にまたは無意識的にやったことは皆高い基準に合ったことです。他の執着に陥らないでください。言ったこと、行ったことが間違いではないかと恐れるのも執着です。できるだけ正々堂々として行えば、問題はありません。

弟子：見栄えを好むことの根源はどういったものなのか、教えて頂けないでしょうか？

師：情です。人に良いと言われたい、人に褒められたい、尊敬されたい、あなたの見栄えを損なう如何なることをも恐れているため、このような心理状態が生じました。つまり見栄えを好むことです。執着です。人間の面子を大事にする心は相当強いものです。実は心を放下し、これらの重荷がなければ、修煉は速く進みます。

弟子：修煉の過程で多くの関を簡単に乗り越え、歯を食いしばって乗り越えることができましたが、「情」の関はなかなか乗り越えられません。連続して何回も乗り越えられませんでした。性格の弱い人、感情豊かな人は特にそうです。二年近く修煉しましたが、彼との感情的な問題で、数カ月間煉功をやめました。今再び修煉すれば、先生はまだ私の面倒を見てくださるのでしょうか？

師：大法は現在、まだ門を開いています。新しい学習者は絶えず入ってきて学び、まだ門に入ってきています。修煉さえすれば、全てあなた自身にかかっています。しかし、ずっとこの状態ではいけません。教訓は一回あれば、もう十分です。「情」は確かに放下しにくいのです。皆さんに教えますが、人々は自分の考えと感情が自分の身体の一部だと思っており、考えを経て生じたものだと思っていますが、実はそうではありません。「情」はまさに最も理性的ではないことの現われです。「情」に動かされている時、全然理性的にならないのです。良く考えてください、皆さんが何かのことをずっと気になって忘れることができず、何かのことで不平不満を感じているとき、それは情に動かされているのです。我を忘れて、上機嫌になり、情緒が異常な時、それは情に動かされて理性を失ったのです。情に対して未練を感じ、胸がえぐられているようにつらい時、情に動かされ振り回されています。全ては情が作用しています。実は情というのは、私たちのこの空間の三界にいる神です。彼は人間のために造られたのであって、人間、三界内の衆生のために存在する神です。情がなければ、人々は冷たくなります。人間に情がなければ、更に悪くなります。それでは、人類はちっとも面白くなくなります。情があるからこそ、人々は喜怒哀楽が分かったのです。情があるからこそ、親子の感情がありました。また、情があるからこそ、家庭を作ることができ、自分の子供を思いやることができます。情は人類にこのような作用を果たしています。しかし、考えの正しくない導きで、情は人々に正しくない行為、または正しくない考え方を起こさせることもできます。人間は生まれてからすぐに情に浸っています。それはあなたの全ての細胞に浸透しており、三界内の全ての分子と細胞は皆情に浸透されています。ですから、修煉の中でそこから抜け出しにくいのです。修煉者は情を放下することができなければ、行った全てはみな人間の行為となります。実は、情を重んじることは即ち、この情を守っていることであり、あなたは常人にほかなりません。それを放下することができれば、あなたは情の中におらず、神になります。つまりこの道理です。

佛、菩薩、羅漢、神は情の中におらず、三界の外にいる神に人間の情はありません。しかし、人間の情がないというのは、他の人を思いやらないということではありません。それは更に次元の高いもので、慈悲と呼びます。それは更に高尚で、広大で素晴

らしいものです。情は三界内の要素の一つです。

弟子：福州の学習者は電話の中で、尊敬する師父にご挨拶を伝えてくださいと言いました。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：シンガポールは多民族で英語が通用する社会です。人口は三百二十万であり、76%の人は華人です。しかし、現在大法を学んでいる人はごく少数です。多くの人々は英語教育を受けており、中国語を聞いて分かりますが、読みには問題があります。他の原因もありますが、以上は彼らが法を得ることの障碍と困難です。私も英語教育を受けたものなので、彼らの困難が分かります。師父、どのようにしたら、大法をシンガポールでもっと多くのこのような人々に伝えることができるのでしょうか？

師：この状況は他の地区においても見られています。オーストラリアにも中国人がいて、または西洋文化の中で大きくなった他の西洋の国の華僑がいます。ですから、彼らは中国語を話せません。しかし、彼らは法を得ることができないのでしょうか？英語の『転法輪』を読めばよいのです。他の言語の『転法輪』を学んでも、同様に法を得ることができ、何の問題もありません。

弟子：師父は地球上の人が人間になるべき人ではないとおっしゃいましたが、私は次のように理解してもよろしいのでしょうか。つまり、これらの人が下りてくる時、少しずつ悪くなったから落ちてきたのではなく、危険を顧みず背負って来たのです。しかし、この世に来たら、迷いの中に陥り、多くの業を造りました。業をあまりに多く造った人は、完全に迷ってしまい、修煉できなくなりました。しかし、このようになっても、師父はこの人が当初、法を得に来たというのを見て、どんな人であれ、修煉という一念が生じ、この門に入った人であれば、師父は彼を済度します。

師：大体このような状況です。しかし、全て正念をもって下りてきたものではありません。落ちてくる人もいます。しかし、大法が人を済度するときに、誰に対しても同じように扱います。私のこの門は門がなくなるまで開かれ、人心を見るだけです。現在の世の中の人々はみな、人間になるために来たのではない、と私は言ったことがありますが、全て佛、道、神になるために来たのでもありません。つまり、全部修煉のために来たのではありません。しかし、皆大法のために来たのであって、大法のために成り、大法のために造成されたのです。中にプラスとマイナス作用を果たす人がいます。

弟子：弟子は法輪大法を学んでから、夢の中で二回先生のことを見ました。二回とも現在の姿です。私は英語教育を受け、混血児です。私はどうして先生の法身を見るこ

とができず、先生の分身を見たのでしょうか？

師：それぞれの修煉の進み具合が違うので、私は皆さんにあまり具体的なことを教えたくありません。それぞれの状況が違うので、私の法身が見えない学習者もいます。ご存知のように私の法身は佛の形象をしており、髪の毛が青く、黄色い袈裟を着ています。佛の境地に到達していない時、佛の形象を見ることが許されていません。こういう問題です。私は皆さんの向上に影響しないように、皆さんに関する具体的な状況をあまり話していません。見える学習者もいますが、見えたら歓喜心を起こしやすいので、私は今まで具体的なことについて話しませんでした。それをずっと聞いている学習者もいます。また、先天的な要素を持っているので、見える学習者もいます。このような人は非常に多くいます。私が既に言ったように、人間は皆、人間になるためにこの世に来たのではありません。このことで引き起こされた現象です。一方、修煉が非常に良くできている学習者もあり、彼をもっと早く突破させるために、見えないようにしたから、このような学習者は見えないのです。如何なる宗教も修煉方法も、あなたをその神より更に高いところまで済度することができません。それに対し、大法は全ての衆生を済度することができ、修煉して到達する次元の高さは全て修煉者本人にかかっています。なぜならば、これは宇宙の法であり、宇宙の中の全ての生命の生存環境を切り開き、あなたを先天の所在位置に戻らせることができるからです。しかし、要求も厳しくなります。とても高い次元まで修煉する学習者がいるので、悟りを破ってしまえば、その境地まで到達することができなくなります。

修煉の道は人によって違います。それぞれ皆違います。非常にはっきり見える学習者がいます。今日はこれ、明日はあれと見えていますが、何も見えない学習者もいます。見えない学習者の次元が低い、見える学習者の修煉が良くできていると思わないでください。修煉の次元はその人の心性の高さを見るのです。これは絶対的です。歴史上の如何なる修煉も機能を心性の高さ、次元の高さを量る基準としなかったのです。従来一回もなかったのです。

弟子：全てのものが徳から転化してきたのならば、先生から何かを得る時に徳を失うのでしょうか？

師：私はこのような話をしたことがあります。つまり、皆さんが皆修煉者で、厳しく自分を律するべきであり、誰でもこのようにしなければなりません。なぜならば、皆さんは修煉の中におり、それは皆さんの修煉に対する要求だからです。しかし、私は修煉者ではなく、師父は皆さんを済度しに来ています。このことを皆さんははっきり認識すべきです。ですから、いつまで経っても私を皆さんと比べないでください。

弟子：全ての弟子の修煉の道を皆圓滿成就まで按排したと師父はおっしゃいましたが、『転法輪』の中で、その人自身が携帯するものと自身の忍耐力を合わせると、それは一定したものです、と書かれています。

師：これは矛盾ではありません。全ての人は私が圓滿成就まで按排しました。しかし、皆同じ境地の中で圓滿成就するとは限りません。この道理ではありませんか？ あなた自身が持っているもの、あなたの忍耐力、堪える力、先天の位置は皆それぞれ違います。

弟子：非常に低い次元で功が開き悟りを開くとありますが、このような人にとって、圓滿成就まで按排されても、どういう意味があるのでしょうか？

師：あなたはそれは意味がないと思っても、他の人にとって意味があるのです。修煉しない人は常人の中で少しばかりの成果があれば満足しており、非常に意味があると思っています。しかも、楽しそうに生きています。この道理ではありませんか？ それぞれの修煉者がどの次元で圓滿成就するのは、本人にとって非常に意味があります。

弟子：私は既に法を学び功を練習し、一年経ちましたが、動功をするたびに、あくびが絶えず、涙がたくさん流れてきています。これは何かの執着心を放棄していないからですか？

師：そうではありません。あくびをするというのは修煉の過程の状態の一つであり、修煉の初期によく見られる現象です。しかし、誰にも現れるとは限りません。この状態は必ずあるものではありません。初期の時、身体から生じた気は脳に走り、それを排出する時にあくびをします。悪いことではありません。初期に身体を調整し、頭にある病気を取り除く時にこのような現象があります。修煉の過程の中の表れです。

弟子：あることに対してそれぞれ自分の意見を固持している時、どのように執着心と自分の意見を固持することとを区別するのでしょうか？ 例えば、あることのやり方に対して違う意見があり、一つの方法しか採用できず、しかもそれぞれの方法は皆法が異なる次元での現れなので、自分の認識にしたがって行うのか、それとも組織の要求に従うのでしょうか？ 全ての弟子が皆法を師にするということはどのように反映されるのでしょうか？

師：問題に対処する時、それぞれ違う意見がある場合、話し合いを経て大法を一義にし、自分の意見を必要以上に強調すべきではありません。最終的に決まったら、一緒にそれを実施すべきです。各自が自分の意見を放さず、長期にわたって議論し、統一することができなければ、法を破壊する魔または魔性に利用されていることになりま

す。自分の意見を固守しどうしても放さなければ、それは自我に対する執着です。

弟子：人々がある物事に対して見方を持つことによって、自己観念が形成されますが、修煉者と常人と違うのは、自己の観念に対する心の持ち様が違います。常人は自己観念の正確性に執着し、他の人にも認めてもらうように思っています。それに対し、修煉者は自己の見解を持つが、それを他人に押し付けはしません。このように理解してもよろしいのでしょうか？

師：絶対に正しいとは言えません。修煉者は安易に常人の中で観念を形成しないからです。全てにおいて法に則って、法をもって謎を破り、常人の観念を破り、法をもって全てを量るのです。正念を固め法を守る以外、常人のことに對して行っても結果を求めず、成功してもしなくても執着しません。固定観念はなおさら持つてはいけません。

大法弟子はどのように議論されている物事に対処すべきなのでしょう？ 正念を持って対処しているのでしょうか？ 特に意見が激しく対立している場合、自分を見るべきです。自分の心がどこに置かれているのかを見るべきです。百パーセント法の上に立っているのでしょうか？ 自分の意見を固守する時の基点をあなたがどこに置いているのか、必ずこの考えの根源を見なければなりません。

弟子：私たちの周りに悲観的な考えを持っている学習者がいます。つまり、自分が三界内の生命であるかもしれないので、いくら頑張っても三界を出ることができないと思っています。この考えは正しいのでしょうか？

師：彼が三界内の生命であると誰がそんなことを教えたのでしょうか？ 私は如何なる人に対しても、「あなたが修煉することができない」と言っておりません。あなたがどのような人であっても、何をしに来たにしても、生まれつき法を破壊するために生まれた人であっても、私はあなたを済度します。(拍手)

ご存知のように、今日の大法学習者は確かに非常に多いのです。もし私たち自身が良く行うことができなければ、これほど多い人数なので、政府の職能別部門は私たちに対して目をつけるかもしれません。実はずっと私たちを調べている人がおり、学習者と一緒に煉功してスパイをやっている人もいます。彼らはずっと私たちを観察しており、何をやっているのかを見えています。私はこのことに對してどのように思っているのかご存知でしょうか？ どんな仕事をする人であっても、皆衆生の一員であり、その人はまず一つの生命です。その人に対して、私はただそれが人間の仕事の違いに過ぎないと思っています。彼らがどのような心でこの環境に入ってきたとしても、私

は必ず善の念で対処します。修煉さえしたければ、私はその人のために責任を持ちます。ですから、大法を調べるために入ってきた政府部門の人たちは、私たちに何も隠しごとがなく、良くないところもないと分かった時、かえって大法が良いと思うようになり、真面目に大法を学びはじめました。そして、「私が誰であるか知っていますか？ 私はスパイです。皆さんがとても良いと分かったから、私もこれを学ぼうとしています」と学習者に言うのです！（拍手）

ですから、大法が人に調べられることは少しも恐れていません。全ての学習者、全てのスタッフは皆このようにすることができると思います。つまり、調べたければ、知りたいことがあれば、全部教えます。見たいものがあれば、それを見せます。何も隠す必要がありません。全ては正々堂々としています。なぜならば、これはこの世の唯一の浄土だからです。今日人類は大法のことを理解する前、良い人が存在していると信じていませんでした。私たちを調べ、この環境に入ってこなければ、この世界にこれらの良い人がいると信じられないのです。

弟子：私は目が覚めたばかりの時、または歩いている時、脳の一部が『転法輪』の内容を暗唱していますが、私の主意識は常人の中のことを考えています。これは修煉してできた部分が暗唱しているのでしょうか？

師：そうです。このような状態が現れることがあります。修煉して良くできた部分ははっきりしており、まだできていない人間の部分が精進していないことに焦っています。

弟子：主人は三月のニューヨーク東部法会の時に質問を出し、先生は心を入れ替え、生まれ変わり新しい人間になるようにと彼を励ましました。彼も先生のおっしゃる通りに着実に修煉しようとしていますが、いつも深い悔恨と自責の中に陥り、抜け出すことができません。しかも、強烈な魔にも妨害されています。既に四ヶ月も経ちました。

師：ご主人の主意識が弱すぎ、はっきりと自分を主宰することができないからです。間違ったと私が言ったら、また自責に陥ってしまい、他の極端に走り、執着してしまいました。魔はこの時彼のこの正しくない心を利用して妨害しています。

弟子：彼は引き続き修煉することができるのでしょうか？

師：これは彼に聞くべきです。私はなぜ精神病患者が修煉することができないと言ったのでしょうか？ ご存知のように、この大法はあなたの主意識を修煉させるためのものであり、他でもなく、あなたに与えるものです。皆さんははっきりと分かった上

で自分で修煉しなければなりません。今までの全ての修煉方法は、今までの全ての宗教も含めて、皆副意識を修煉させるものです。人が死んだら、主元神は相変わらず輪廻転生しますが、基準に達した部分は天国に上がります。しかし、それは本当の自分ではなく、副元神です。この千古の謎は昔明かすことができなかったのですが、今日私はこの大法を伝え、皆さんが済度されるようにするために、これらの千古の謎、秘中の秘、天機の中の天機を全部衆生に伝えました。もし自分自身が修煉することができず、自分のはっきりしていなければ、この法は誰に与えたことになるのでしょうか？ 誰が得ることになるのでしょうか？ ですから、あなた自身の主意識ははっきりしていなければなりません。はっきりしていなければいけません。ですから、私は再三皆さんに教えていますが、理性的に、正々堂々と修煉してください。

弟子：座禅の時、座布団で後ろを高くし、腰の負担を減らすことができるのでしょうか？

師：とりあえずはしていいのです。あなたに練習の過程を与えなければなりません。しかし、将来はだめです。なぜならば、将来あなたはきっとやり遂げることができるからです。

弟子：夢の中で、先生は「真を偽まで修め、偽がなくなるまで修めれば、修煉は成就します」とおっしゃいました。

師：二つの方面からこのことを見るべきです。まず、人類社会のこの現実には神の目から見ればそれは本当のものではありません。また、これはあなたが執着している真実に対するお告げです。あなたが具体的に執着していることに対して告げています。私はこのようにあなたに教えるしかありません。私があるあなたに与えたお告げを私に解釈してもらってははいけません。それでは、私はどうしてあなたにお告げを与えるのでしょうか？

弟子：真善忍の順序に何か特別な意味合いがあるのでしょうか？

師：圓融しているのです。「真」の中に真善忍があり、「善」の中にも真善忍があり、「忍」の中にも真善忍があります。

弟子：『転法輪』の中で、先生は佛家と道家を言う時に、いつも道家のことを佛家の前に置いてありますが、これは真善忍の配列順序と関係があるのでしょうか？

師：これらのことに気を取られないでください。特別な関係はありません。佛道神、私は言いやすいからそう言ったのです。道佛神と言ってもいいのですが、言いにくいのです。神道佛でもいいのですが、やはり言いにくいのです。真善忍のほうが言いや

すいでしょう。順序が違ってでもいいのですが、言いにくいのです。わたしが言ったように皆さんが言えばいいのです。

弟子：私は真面目で、慎重な人ですが、短気な人でもあります。この状態が既に修煉の障碍となっていると感じました。

師：大きな障碍ですね。これを察することができれば、非常に素晴らしいのです。

弟子：これは後天的な観念と業力によってできたのでしょうか？ それとも先天的な特殊性でできたのでしょうか？

師：観念によるものです。この種の観念です。これは長きにわたって形成されたものです。何かに遭ったら、すぐこのような観念に入ってしまう。その性質はいわゆる慎重と真面目、短気のようなもので、習慣的なものとなりましたが、取り除くことができます。

弟子：これほど苦しい環境の中でも修煉しようとし、本当に素晴らしいと先生はおっしゃいましたが、私はかえって、この世があまりに苦しくつまらないから、修煉しなければならぬと思っています。私は苦を嘗める力がないのでしょうか？

師：これは違います。私は私と神々の人間に対する見方を話しましたが、あなたの感じ方は世の人々が普通に思っている感じ方です。人類社会は確かに非常に苦しいのです。如何なる空間の生命も飛んだり、漂ったり、大きくなったり小さくなったりすることができ、全ては自由自在なのです。人類と表面の殻の空間だけはこの状態です。生まれた時から、この空間の全てに束縛され、歩けば疲れるし、食べなければお腹が空くし、飲まなければ喉が渇くし、薄着したら寒くなるなどなどです。これは自然にこの空間に入ることによってもたらされた苦です。もちろん、人と人の間の心性のトラブル、業力の作用もあり、絶えず無知の中で業を造ること、更に人間には分からない苦、言い表すことのできない苦もあります。ですから、人類はとりも直さず、苦しいのです。

弟子：金属に触れると手から電気が走る学習者がいますが、既に一年あまり続いています。先生にお聞きしたいのですが、これはずっと同じ次元にいるということなのでしょうか？

師：違います。人間が修煉の中で現れる全てのエネルギーは、つまりあなたの功とあなたの体の変化ですが、多くの人の場合電気を帯びています。人間が最も敏感なのは、電気のあるものです。電気は実はエネルギーの一種の現れです。他の面から言えば、修煉のあるところにおいて精進していなければ、またはあるところにおいて少し劣っ

ている場合、学習者を悟らせていることもあります。もう一つの場合ですが、修煉の中で次元が高まる時、人体の表面において突破があります。それと対応する電気を防御する機能の進み具合も違いがあるので、この現象があります。これはたいしたことではないので、大丈夫です。全て調整され、良くなります。

弟子：シドニーに大法を攻撃している人がいますが、裁判でその人を訴えると主張している人がいます。私はこれが常人の手段であり、常人と戦っていると思っています。この考え方は正しいでしょうか？

師：まず、学習者を肯定的に見るべきであり、彼の大法を守りたい心は間違っていない。その人がどのように法を破壊しているのかを見るべきです。もし大法に対してある程度の影響を及ぼしたら、学習者が法を守りたいという立場から、法律の手段で問題を解決しても間違いとは言えません。もちろん、できるだけこれらの手段を使いませんが、どうしても法律の手段で解決する必要がある場合、それも良いかもしれませぬ。しかし、人を済度しているのです、やはり寛大な態度でその人に機会を与えるべきです。その人が無意識のうちに大法を破壊したとしても、彼に認識の過程を与えるべきです。まずその人に説明してみて、それでも続けるのなら、法律の手段を講じても構いません。なぜならば、オーストラリアの大法学会は登録された合法的な団体であり、法律上合法的なので、任意に攻撃されてはいけないからです。しかし、このような出来事の多くは個人の修煉と関係があり、自分を見なければなりません。自分の執着心によるものなのか、または取り除かれていない執着が作用しているのか、自分を見るべきです。

弟子：修煉中の状態は何千何万もありますが、修煉中の状態に正しく対処したのかどうか、どのように自分を量るべきなのでしょう？

師：個人修煉の中で現われてきた全ての感受と状態を修煉中の正常な状態と見なすべきです。修煉の中で、誰もが全ての関門をしっかりと乗り越えたいと思っており、自分が一体しっかりと乗り越えたかどうかをも知りたいと思っています。実は、利益の前に平然として動じなければ、既に乗り越えたこととなります。トラブルの前でまず自分の原因を探し、自分をまず正すことができれば、つまり乗り越えたこととなります。各種の試練の中で執着を放下することができれば、乗り越えることとなります。もちろん、乗り越えてもその程度が違います。全部できる学習者がいますが、表面だけやり遂げたが、心の中でまだ放下することができない学習者もいます。また、見かけでは素晴らしかったのですが、心の中でまだすっきりしていません。つまり少しを残したことです。これはすぐ判断することができます。

しかし、全ての関門は皆さんがしっかり乗り越えなければならず、乗り越えることができなければ、修煉の基準に達することができないということなのではないでしょうか？ あなたはだめになったのでしょうか？ そうではありません。皆さんに教えますが、修煉は取りも直さず人の心を修めるのです。私がいくら明白に説いても、利益の前に、怨念の前に、人と人とのトラブルの中で、あなたは心が刺激されるのです。本当に平然として動じなければ、それは本当に素晴らしいのです！ ある関を乗り越えることができず、「この関を乗り越えることができなかったから、私はもうだめになったのでしょうか？」と皆さんは思うのです。違います。認識の高い人もいれば、低い人もいます。この関をしっかりと乗り越えた人がいれば、少し劣っている人もいます。全く乗り越えられなかった人もいます。しかし、皆さんは後悔し、自分は意気地がないと思っています。そして、次回必ず乗り越えられ、この足りない所を補うように決心しますが、実はこれが修煉なのです。全ての関を乗り越えることができれば、私に言わせれば、それは修煉ではなく、師父である私は責任を果たしていないこととなります。つまり、あなたのために設けた難は小さく、あなたの心性はそこから向上することができなかったということです。そうではありませんか？

弟子：日本の弟子は師父にご挨拶を申し上げます！

師：ありがとうございます（拍手）。

弟子：私は既に三年余り修煉しましたが、母は三月に亡くなりました。母も三年間修煉しました。私は時々、自分の誤りで母の難を大きくしたことを後悔しています。母が生死の関にぶつかった時に、私はその時大法の厳肅性をはっきりと認識することができず、法から真に母を助けることができませんでした。

師：別に自分を責める必要はありません。やりすぎるとこれも執着になります。皆さんが皆修煉の中におり、過ちを起こすこともあり得ますが、他の人に絶対的な作用をしません。相手も修煉者の場合は特にそうです。修煉は一人一人自分のことです。妨害の前に、平然として動ぜず、自分を制御することができれば、それこそ修煉と言えます。他の人の行いが良くなかったため、その人をあまり助けることができなかったということですが、もし修煉の人が皆他人からの助けを頼りにしていれば、その人が自分で修煉したことになりません。これに対して、別に自分を責める必要はありません。足りない所があれば、教訓を汲み取り、自分が更に良く行うようにすれば良いのです。幾つかの方面から見るべきです。あなたが思っているほど悪くはないかもしれません。人々は大法を学びましたが、決して無駄になることはありません。将来あなたの圓滿成就で彼女が済度されることもあるかもしれません。

弟子：物質の構造について説いていただけないのでしょうか？

師：この問題は非常に大きな問題ですよ！ どのレベルの物質の構造なののでしょうか？ どの種の物質の構造なののでしょうか？ これは非常に複雑なことです。分子の表面の配列順序は既に科学者に認識されました。物質の構造の全体は話しても話しくせません。私は幾日間話しても話しくせません。私は宇宙の概念を説いた時、最大限に人間の認識、人間の考え、人間の言葉で皆さんに説きましたが、それは非常に限られたものとなり、大まかな話に過ぎません。これでも、私は概括的に宇宙にある一種の物質の存在方式を説いただけです。しかも、人類の言葉は非常に乏しいのであって、限られています。ですから、人類にそれを言い表せる言葉はありません。

弟子：私たちのこの空間に起こった出来事の順序は、時間概念のない空間でどのように現われるのでしょうか？ 年代で直接に現われるのですか？

師：この前、ある若者は「一プラス一、イコール二、これは真理です」と私に言いました。常人の中でこれは真理ですが、この空間を離れると真理ではなくなり、異なる時空の状態の中でそれは真理ではなくなると私は答えました。異なる時空の状態の中で、人間の概念でそれを量ってはならず、そこにはその時間の計算方式、生存方式と物事に対する認識の方式があります。それは完全に違うものです。良し悪し、正と反に対する認識は人間の認識と違います。

弟子：皆それぞれ返さなければならない自分の業があり、自分の業は自分で耐えなければならず、ほかの人は勝手に干渉してはなりません。もし命の危険に晒されている人がいれば、修煉者としてどのように対処するのでしょうか？

師：これについて、私は既に数回説きました。修煉者は常人のことに干渉しませんが、殺人と放火をしている人がいるのを見て手をこまねいてしまったら、それは心性の問題です。私が言った無為とは、執着心を抱いてどうしても何かを探してそれをやろうということをしなさいということです。

弟子：香港の学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：『転法輪』を読む時に、雑念が頭に入ってくるのですが、どのようにこの問題を正しく扱い、対処するのでしょうか？

師：これは非常に自然なことで、誰もが遭遇することです。しかし、必ずそれを克服しなければなりません。これは後天的に形成された観念と頭から生じた業力によって引き起こされたもので、あなたの修煉と法を得ることに妨害しています。それを排斥

し、確固として注意力を集中し本を読み法を勉強します。このようにすること自身がそれを消滅しているのです。法なので、法を学んでいればそれを消滅しているのです。決してそれに影響されてはいけません。目は字を追っていますが、考えがここにあらず、見ている字を何と読むかも分からなければ、いけません。読んでも無駄です。

弟子：心性の関にぶつかる時に、その時乗り越えたと思いますが、しばらくして振り返ったら、しっかり乗り越えておらず、または乗り越えなかったと気づきました。これは次元の向上によって生じた現象ですか？

師：そうです。修煉を通じて次元が高まってから、振り返ってみたらこのように感じます。実は基準が高くなったので、あなたに対する要求も厳しくなったからです。

十分間休憩してもよろしいでしょうか？

(学習者は師父に花束を贈呈し、師父に最高の敬意を表します) (拍手)

師：ありがとうございます。(拍手) お花はとても高そうですね！ このお金を使わなくてもよいのです。これらのことにこだわりません。でも、皆さんに感謝しています。(拍手)

弟子：他の気功を学んでいた学習者がおり、二三時間座禅することができます。彼らは座禅できない学習者より優れていると思ひ、法の勉強と心性の修煉に力を入れていません。どうぞご教示をお願いします。

師：身体の先天的な条件にかかわらず、本当に大法に入ってきたら、違ってきます。以前体育や、ダンスをする学習者がおり、足が非常に柔らかいので、すぐ足を組めるようになり、非常に楽です。しかし、それは煉功なのでしょう？ 違います。本当に修煉しようとする時、状況が違ってくると気づくに違いありません。ダンスをしていた足は組めなくなり、しかも非常に痛いのです。なぜならば、修煉者の座禅は決して機制のない単なる座禅になってはいけないからです。これが修煉なので、あなたの全てはあなたの向上のために責任を負わなければならない、座禅も含まれています。座禅は本当にあなたの業を滅し、心性を高めるなどの作用が働かなければなりません。座禅の時間がいくら長くても、何の役に立つのでしょうか？ 業力を滅することができず、修煉の中で作用を働くことができず、座禅のために座禅をしていれば、座禅の時間が長くても何の役割があるのでしょうか？ このようなことでしょうか。私はここで誰それを責めているのではなく、法理を説いているのです。座禅の時間の長い人が次元が高く、修煉が良くできていると私は従来言ったことはありません。以前ほかの

気功を習い、またはダンスや体育をしていたので、その時足を組んでも痛くなかったのです。しかし、その時と同じで、何の変化もなければ、それはただで済むことはありません。大法とすれ違ってはいけないからです。真に法を勉強しなければ法の貴重さも分かりません。足の組めない人は焦らないでください。執着になってしまえば障碍となります。ゆっくり組んで、まず片足を組んでください。最終的にきつと組めるようになります。八十歳の人が足を組んだことがないのに、最終的に組めるようになりました。あなたはなぜ組めないのでしょうか？ 誰も組めるようになります。

弟子：私は数年間法を勉強しましたが、一切の奥義の洞察からまだ程遠いと感じています。

師：実は、あなたに教えますが、修煉してまだできていない表面の部分は神のことを知りたいと思っています。しかし、考えの中でこれらのことに執着しているのは後天的な観念と思想業力なので、どうしてそれらのものに神のことを教えることができるのでしょうか？ その上、あなたは本当の自分の正念とは何かをわきまえることができなかったのです。修煉の過程で、『転法輪』を読んで、突然一つの法理が分かった時、あなたは既にその次元にいたのです。でなければ、その次元の法理は決してあなたに開示されることはありません。どうして全ての法理を一気に知ることができないのでしょうか？ 修煉してまだできていないあなたの人間の部分は決して神佛のことを知ってはいけないのですが、修煉してできたその部分は隔離されたからです。あなたは法の勉強から徐々に更に高い次元の理を知るしかありません。これは一種の法理の開示です。しかし、修煉してできたその空間では、修煉者は瞬時にその基準に達し、修煉してできたその部分は直ちに自分のいる境地での宇宙の全ての法理を知るようになります。私に会って質問を何も出せず、何も話すことがないような学習者が多くいます。実は皆さんは何でも分かるようになり、修煉してできた部分は私に会うと直ちに元気になったので、まだできていない表面の人体も分かるようになりました。修煉してまだできていない人間のこの部分はいつまで経っても聞きたい質問があります。ですから、私から離れると、人間の表面が急に質問を出すことに気づきました。「しまった、質問があるのに、なぜ先生に聞かなかったのでしょうか？」という状況です。多くの人はこのような状態です。

弟子：修煉過程と精進して佛法を修煉することに影響する要素をずっと注意深く研究しており、自分自身の修煉が更に良くなるように促したいと思います。

師：別に研究するほどのことではありません。他でもなく執着心の問題です。私は皆さんにこれ以上明白に法理を説くことができないほど法理を説きました。昔これらのことは皆、人に悟らせるものでしたが、私は全部明らかにしました。くれぐれも大法

を研究するという心を抱きながら法を勉強しないでください。問題にぶつかったら、自分の考えから問題を探せばいいのです。きっと問題はそこにあります。執着を取り除くことができれば、きっとその関を乗り越え、事をうまく運ぶことができ、向上することもできます。

弟子：いつも自分の法理に対する理解及び認識と近い人、あることに対して同じ悟りを持っている人と交流し、切磋琢磨するのも、執着なのでしょうが？

師：自分と話の合う学習者と接触したいという考えの中で人間の心が作用しているかどうかを見るべきです。もしそれがなければ、別にいいのですが、間違っただけの要素があれば、精進の障碍となりうるのです。

弟子：法に対する理解が違った場合、またはある事に対する悟りが違った場合、いかに自分の固有観念を取り除き、より良く向上することができるのでしょうか？

師：修煉者は他の人と同じ次元で向上することはあり得ないので、あなたと他の学習者にそれぞれ違った見方、法理に対する違った認識が存在するかもしれません。一つ一つ差の非常に小さい次元で法に対する理解が違えば、それが差異なのです。全ての学習者は進歩しており、精進していますが、法に対する理解は皆異なるかもしれません。いずれにせよ、皆さんが何を行っても、大法の仕事をも含めて、できるだけ大法を第一に、法を実証し世の人々を救済すること、大法を守る事を第一の考えの基礎にすべきです。常人に対して法を広めるのであれば、行動において常人が理解できるようなことをし、法の最も表面的な理を常人に示すべきです。自分自身が認識した更に高い次元の法理は、修煉の次元がいくら高くなっても、それを言い表すことができないもので、心で会得するだけです。また、超常的な理をもって常人に働きかけてはいけません。しかし、常人と混同してしまうこととしてはいけません。

弟子：師父は全ての空間の生命体が私たち常人のこの身体を持っていないとおっしゃいました。

師：そうです。全ての空間の生命体は人間のこの次元の分子で構成された体を持っていません。しかし、三界の外にある、それほど高くない次元に特殊な状況があります。極めて少ない次元にこのような状況があります。

弟子：ですから、病気にかかることもなく、生老病死の問題、このような苦痛もないわけですね。他の空間の人が浮き上がることができ、重さもなく、非常に素晴らしく気分がいいのです。しかし、死んだ人も人間の肉体という殻から抜け出したにもかかわらず、なぜ苦しみがあるのでしょうか？

師：それは人間が死んでも三界から離れていないからです。三界内の人間は皆、人間と呼ばれており、苦しんでいるのです。三界の高いところに行けば行くほど、次元の低い人より少し心地よくなるだけです。この世の人間は最も苦しいものではなく、人間より次元の低いものはまだたくさんあります。更に、地獄もあり、地獄よりも次元の低いものも多くあります。人間は神と比べて最も苦しんでいるものです。生老病死の問題は三界内の全てのところに存在しており、人間だけにあることではありません。通常、人間の主元神が身体から離れた時に、三界から離れておらず、まだ三界に留まっており、死んでから上へ転生していきます。三界にある、人間より高い次元での苦は人間の空間での苦より少ないのです。もし、人間にも劣り、人間より下の次元にいれば、人間よりも苦しいのです。三界内の各次元の人間は人間と総称されています。しかし、天上の人間は私たち地球の人間を人間と呼び、天上の人を天人と呼ぶのです。

弟子：南京の弟子は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：深圳の学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：私は一年前に大法と接触し、大法が非常に素晴らしいと思っています。しかし、私は宗教を信仰しており、宗教を放棄したくはありません。大法の要求に基づけば、不二法門を遵守すべきですが、私は大法と宗教のいずれかを選択することがなかなかできません。私はどうしたらよいのでしょうか？

師：これはやはり自分自身に聞いたほうが良いと思います。何を選びたいのかは自分で決めることです。法理は私が既に明白に説きました。道はあなた自身が歩むものですが、私は修煉界の実情を皆さんにも教えました。当時、私は中国で功を伝えていた時、私が講義を始めると、私とあまり離れていない所できっと講義を始めた偽気功があります。人間は自分自身で正と邪を選ぶのです。今日、私たちはここで法会を開いていますが、向こうに何かの宗教組織も会議を開いているのではありませんか？ いずれにせよ、邪悪の旧勢力は相生相克の理を利用して世の人々が済度されることを妨害しています。見た目は法を得ることが簡単に見えますが、実は簡単ではありません。現在全ての正教は神に手放され、宗教にいる人間は金銭と地位のために争っています。人間がなぜ宗教を信じるのかは一つの大きな問題ですが、これらの道理は私が既に非常に明白に説きました。信じるかどうか、何を選択するのかはあなた自身のことです。あなたは自分が修めたいものを修めれば良いのであって、修めたくなければ修めなくても構いません。私は人の心しか見ておらず、如何なる形式上のものもありません。

弟子：大法弟子が圓滿成就する時に、身体の変化は二通りの状況があります。一つは身体が高エネルギー物質に取って代わられますが、もう一つは、元嬰が身体に取って代わることです。この理解は正しいのでしょうか？

師：私は今日、皆さんに最も良いものを与えています。しかし、それぞれの状況が違いますので、肉体を与えてもそれを欲しくない人もいます。その人が肉体を持って戻れば、そこの神はそれがおかしいと思うので、肉体をほしくありません。何でも欲しいと言っている学習者もいますが、実は皆さんは人間の考えでこれらのことを考えています。あなたが分かった時、悟りが開いた時になると、今と全く違った考え方を持つようになります。なぜならば、その時になると、皆さんに人間の考えがなくなり、完全にその境地に立って物事を考えるのです。実は大法の修煉において、どんなものでも修煉を通じて現れてきます。学習者に必要なものであれば、現れてきます。なぜならば、これは宇宙の根本的な法だからです。

弟子：弟子の護法の神は師父が遣わしたものののでしょうか？

師：正法を修煉する場合、師父と神々、神兵によって見守られているのです。しかし、他の宗教の中の言葉と概念を使用しないでください。不純な要素をもたらしてしまう恐れがあります。大法を修煉している皆さんのことはともかく、多くの汚い人、だらしのない人が破れた布団を持って、落ち着く場所がなく、見れば乞食だと分かりますが、彼の周りには天竜八部によって護法されており、人間は彼が誰であるか分かりますか？ 人間には分かりません。人間は人間の目で物事を見えています。なぜ修煉してから、大胆になった学習者がいるのでしょうか？ 以前夜道を歩けなかった人がなぜ、大法を修煉してから歩けるようになったのでしょうか？ これらのことにみな原因があります。

弟子：江西省景德鎮の学習者は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：常人の中で身体障害者の福祉を享受していますが、法を得てからこの福祉を享受してはいけないのでしょうか？ この福祉を享受したら、業を返すことができないのではないかと心配しています。

師：この問題は、二つの面から見るべきです。あなたが身体障害者で、働くことができず、生活を支える収入がなく、国にこの政策があれば、私が思うには、享受しても構いません。なぜならば、最大限に常人に合わせて修煉すべきであると私は教えたからです。私はこれらの形式を見ず、人の心のみを見えています。現在の人類社会はこの

ようなもので、法律がこのように規定し、社会もそれを認めているのであれば、この点において最大限にそれに合わせていいのです。もし、身体の病気が大法を修煉することによって治ったにもかかわらず、この福祉を享受し続け、政府に知らせなければ、これは心性の問題です。このように見るのです。ほかの各種の手当てがありますが、常人社会の条件を満たしていれば、受領しても問題はありません。

弟子：煉功のとき、思想業力またはその他の情報による妨害が現れましたが、私がそれを排斥していないうちに既に完全に現れてきました。

師：速く現れてすぐに反応できなかつた場合、修煉が良くできていないということではありません。間違いだと分かつたにもかかわらず、放任していればそれは自らを修めていないことになります。もし放任して行動がそれに支配されてしまえば、それは常人です。実はそれに気づき、それが自分ではないと気づき、この考えが良くないと気づいた時は、実はあなたはそれを取り除くことになっています。普段の法の勉強によって基礎をもっとしっかりとしたものにする事ができれば、状況は大分良くなります。常人は修煉しておらず、全くこれらのことを意識することができず、全ての考えが皆自分自身のものであると思ひ込んでいます。結局のところ、常人の中で形成された観念は人間を制御して、全てを行っていますが、人間はそれが自分自身によって行われたことだと思っています。人間の自分自身はその時、埋没され覆われ、何の作用も果たせず、全く自分自身ではなくなつたのです。現在、社会で人々は皆このように生きています。損したり、騙されたりすることがめつたにないので、この人は有能で、老練であると他人に言われると、自分が褒められていると思っています。しかし、私に言わせれば、このような人はこの上ないばかり者です。このような人のこの一生においては自分自身で生きておらず、他のものに自分を預けてそのものが彼の代わりに生きています。彼の身体は他のものに制御されています。

弟子：私は自分自身とわきまえる方法を探りましたが、このようなものを完全に途絶することはできません。

師：私はあなたを要らないと言うだけで、そのものが死んでしまうのならば、これはあまりにも痛快な話です。そのものをわきまえることができると同時に、あなたは強くなってきており、目覚めているのであって、そのものによる包圍を突き破っているのです。あなたがますます強くなれば、それらはますます弱くなり、消滅され、最終的に消滅されてしまいます。これには過程が必要なのです。

弟子：功に良くないものをもたらず恐れがあるのでしょうか？

師：ありません。あなたの正念が作用しているからです。気をつけなければ、隙に乗

じられますが、功は妨害されません。なぜならば、師父はあなたを見守っており、あなたは法の勉強に力を入れ、正念を保持し、問題にぶつかったら自分を探し、自分の問題を調べているので、それらは怖くてたまりません。自分が気づかれれば、消滅され、おしまいになるとそれらに分かっているからです。

弟子： 生きている間に、圓滿成就まで修煉することができなければ、業を持ちながら転生することができるのでしょうか？ 法輪世界で続けて修煉するのであれば、極楽世界のようなものなのでしょうか？

師： 宇宙で法が正されており、天体が建て直されています。法が正された後の全ては最も素晴らしいもので、基準に達していないものはその基準より高い基準を持つ次元の中の生命にはなりません。基準と相応するところにいるのです。実は皆さんに教えますが、以前極楽世界ではこのような状況がありましたが、法が正された後になると、何とも言えません。業を持ちながら転生すると言うことは人間が思ったような状況ではありません。人間はそれを人格化し、人間味をもたらし、感情化したのです。業を持ちながら転生するとはどういったことなのでしょうか？ 皆さんに教えますが、本当に業を持ちながら往生することのできる人は、その決意の堅さと信念において既に基準に達したのです。人間に最も乗り越え難い関、修煉の際必ず乗り越えなければならぬ関は、他でもなく生死を放下する関です。もちろん、誰もが生死の前に試練を受けなければならないということではありませんが、それが必ずしもないとも限りません。自分にとって最大の難関と最大の執着を前にし、それを放棄することができるかどうかは、実はこの一步を踏み出すことができるかどうかを試練しています。生死を放下することができれば、あなたは神ですが、それができなければ、あなたは人間にほかなりません。もちろん、生死を放下することは、本当に死ぬということではありません。ここで修めているのは、人間の心を取り除くことです。死ぬ時に考えの中に全く死亡する時の恐怖がないということは、常人にできることなのでしょうか？ もうすぐ死ぬのですから、それはどういった気持ちなのでしょうか？ 如何なる修煉の基礎と思想の基礎もなければ、できることなのでしょうか？ 死ぬ間際に口の中でまだ佛を唱えており、しかも彼が恐れていないどころか、佛を唱えることによって心の中で一種の喜びが生じ、このような佛に対する喜びを持って去っていきます。この人は地獄に落ち得るのでしょうか？ 彼は揺るぎない正念で生死を放棄したのであって、これは既に人間としての行為ではなくなりました。死を恐れない人間はいるのでしょうか？ 口で佛を唱えており、佛はこのような人を見たら、彼を受け入れずにいられるのでしょうか？ もちろん、彼にまだ業力があり、精進して修めなかったので、まだ取り除かれていない心があります。それでは、どうしましょうか？ 彼を極楽世界に非常に近いところに置き、そこで続けて修煉させるのです。数万年、数十万

年修煉して、基準に達してから、はじめて極楽世界に行くのです。どうしてそれほど長い時間がかかるのでしょうか？そこには苦がないからです。苦がなければ、修煉が遅くなります。人間のこのところで修煉する場合はなぜ速いのでしょうか？なぜ一生の数十年で成就するまで修煉することができるのでしょうか？私の弟子なら更に速いのです。人間のこのところは苦しいからです。皆母親から生まれ、お互いに皆同じなので、苦のない情況と比べることができないため、苦を感じることもできません。実は神から見れば、人間はとても苦しんでいるものです。大法の修煉は決して無駄になることはありません。個人修煉の段階で精進しておらず、または精進の足りない、悟性の劣っている人がいますが、寿命が尽きる時になると、このような人も何かを得ることができます。当然これは按排があります。来世続けて修煉したいという願望があれば、修めたものを失い無駄になることはありません。得たものをもって転生し、転生してから続けて修煉します。このような情況があります。また、確かにこれ以上修煉することができない人の場合、来世において福報として按排されます。なんとと言っても、苦を嘗め、代価を払ったので、正果にならなかったのですが、それを福報にし、来世高官または大金持ちになるようにします。もちろん、これは私たち修煉者が求めることではありません。この人は続けて修煉することができなくなります。こういった情況です。

もう一つですが、ある学習者の息子が修煉して圓滿成就したとしましょう。彼も修煉しましたが、圓滿成就することができませんでした。その息子が圓滿成就しました。彼の息子は彼を自分の世界の衆生として自分の世界に迎えるかもしれません。この場合、彼は果位がありません。衆生になったので、庶民になりました。佛の世界にその他の衆生もいますが、この世にいるこのような汚い人間ではなく、それはその境地の基準に達した天人です。

弟子：長春の弟子は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：「自我」に対する執着は最も取り除きにくい心なののでしょうか？

師：それはもちろんそうです。人々はこの世で生きており、皆自分のために考えています。それによって多くの私心が生じました。私心があれば、情に動かされやすくなります。修煉の中で、どんなことをも放棄しにくく執着を取り除きにくいという現象として現れてきます。大法のために何かをする時も、自分の役割、自分の名、自分の喜びを守ることに執着するということがも現れます。常人なら、その現れはもっと複雑なのです。幹部になりたいとか、先祖の名を上げたいとか、自分のことを人に褒めて

もらいたいとか、金を好み、人より地位が高くなりたいたいなどがあります。自分の喜びを守る事が、情の表れであり、私心のため自我のための表れなので、最も取り除きにくいのです。慈悲をもって全ての人に対処すべきであり、如何なる問題に遭遇しても自分の原因を探すべきです。人に罵られ、殴られたとしても、自分を探し、自分のどこかが良くなかったから引き起こされたのではないかと見るべきです。これはトラブルの根本的な原因を見つけることができ、私心のため自我のためという執着を取り除く最も良い方法でもあります。あなたの敵を含む個人修煉の中の全ての人を許すまで心を広くすべきです。なぜならば、あなたが言っている敵は人間が判断している敵であり、利益のために人間が判断したものであり、神の行為ではありません。ですから、要求もかなり厳しいのです。神はどうして人間を敵にするのでしょうか？ 私たちは修煉の過程で、如何なることに遭っても、まず他人を考えるべきです。他の人の何かを得た時も、相手がこれを失ったら、何かの損害を蒙るのではないか、彼はこのために苦しんでいるのではないかとまず相手を考えるべきです。如何なることにおいても、まず相手を考え、相手のことを考えてから自分を考えるのです。私は他でもなく、皆さんが自分のことより他人を優先的に考えるという正法正覚の圓滿成就まで修煉するようにと要求しています。これは私心を取り除くことであり、これで「自我」を取り除くことができます。皆さんが修煉によってできたその部分はきっと私が先ほど言ったような状態です。皆そうなのです。ですから、皆さんのところで見れば、問題に遭ったら自分の原因を探し、他人のために多く考え、自分を修め、内に向けて探し、他人の足りないところを少なく見、全ての出来事に対して私の言った通りに行うことができれば、皆さんは実は既に精進の中にいます。

弟子：この数年来、私は佛教のお寺のことにかかわっています。法を勉強してから法に反していると気づきましたが、どのように対処すべきかが分かりません。私は自分の執着を放下すべきだと分かっていますが、自分の責任をなかなか捨てることができません。どのようにこの問題に対処すべきかを教えてください。

師：実は、これより簡単なことはありません。あなたはなぜ放下できないのでしょうか？ あなたは自分の責任を放棄することができないと言っていますが、それは常人の基準であり、佛を修めることと関係があるのでしょうか？ あなたに放下できないのは、常人の情です。この責任は佛が重んじるものなのでしょうか？ それならば、あなたは誰のために責任を負っているのでしょうか？ 宗教そのもののために責任を負っているのでしょうか？ あなたの責任は人々に圓滿成就させることができるのでしょうか？ あなたの責任は自分自身を圓滿成就させることができるのでしょうか？ それができなければ、それに執着してどうするのでしょうか？ あなたは自分の真の圓滿成就のために責任を負うべきではありませんか？ あなたは自分のい

わゆる責任のために、一生執着し、大法とすれ違うのか、それとも本当にこの機会を手にし、自らの真の修煉と真の圓滿成就のために責任を負うのでしょうか？ これはあまりに簡単なことではありませんか？ 有為のことは決して圓滿成就することができません。そのお寺の中で修め、あなたのそのいわゆる責任と心を取り除くことができなければ、佛はあなたを見て心が苦しいのです。お寺の中で何かの幹部になったから、あなたが基準に達したと佛は思っている、と思わないでください。佛は宗教を認めず、人心だけを認めるのです。宗教は人間が作り出したもので、当時イエスも釈迦牟尼も宗教をやりませんでした。彼らは修煉者の心を認めるだけでした。もちろん、修煉者が一緒になって修煉の環境ができれば、それに越したことはありません。それは本当に修煉し正果を得るまで圓滿成就することを第一義にするものです。環境や教会そのものに執着していれば、それは有為ではありませんか？ 多くのお寺を建て、多くの佛像を作ったから、将来きっと圓滿成就すると思っている人がいます。私に言わせれば、圓滿成就することができません。常人の中でも多くの方が佛像を作っていますが、それは何でもなく、ただの仕事です。それは有為です。有為の法は幻のうたかたである、これは釈迦牟尼が説いたことです。考えが真に向上せず、思想業力で頭がいっぱいになっていて、時々悪い考えが現れてくる人を佛のところに置いてしまえば、あたかも一山のゴミを佛、神の前に置いているようです。これは許されるのでしょうか？ 決して許されません。ですから、皆さんは修煉の中で、これらの汚いもの、良くないものを取り除き、純粹で清らかな身体と考え、更に高い境地での考えを持つようになってはじめて、佛の世界に行けるのです。まだこれらのことを放棄せず、これらの有為のことを放下しなければ、何と愚かな者でしょう。

弟子：先生はいつまで法を説き続けるのでしょうか？

師：法がこの世を正すことが終わるまでです。

弟子：本の中の「人間」、「人類」「常人」という言葉の意味は違うのでしょうか？

師：同じです。ただ異なる場合での使い方で、意味は同じです。常人はつまり人間です。実は更に高い境地で天人、つまり三界内の天人も含まれています。人類はそれは人間であり、修煉しない人は常人です。

弟子：修煉の過程で悟った超常的な理が正しいかどうか分かりませんが、どうしたらいいのでしょうか？

師：超常的な理を悟った時にきっと神聖で、大法の法理と一致した正念の昇華という感じがあります。更に高い次元の法理は心で会得するしかありません。古代の人は「心領神会」と言っていますが、つまり自分の頭で分かったけれども、人間の言葉で言い

表すことができないということです。言ってしまうと、それが普通のものとなり、常人の理と同じになると気づくのです。人間の言葉で話すと、味が違ってきます。なぜでしょうか？ 高い次元の理は高い次元の思惟と言葉で表現するしかありません。ですから、学習者は自分の行動において、高い次元で悟った人間より次元の高い行為を常人に表してはいけません。人間は取りも直さず人間であり、人間には人間の理と行動より次元の高いものを理解することができません。

最大限に常人社会の状態に合わせて修煉することを遵守してください。あなたが悟った更なる高い次元の法理は、あなたの修煉での昇華であり、常人社会でその状態を表すためのものではありません。あなたがこの空間で法理が分かった時、他の空間での変化は非常に激しいものです。ミクロ的な粒子で構成された体に変化すると、それは相当激しいものです。その上、その次元において、かつ然と全ての法理が分かるようになるのです。

弟子：修煉の中で、見たほかの空間の物体または生命ですが、どのように彼らが良いものか悪いものかを判断するのでしょうか？

師：修煉して間もない頃の人にとって、これは判断しにくいもので、すぐにわきまえられるものではありません。しかも、多くの次元の高い空間の神は法を正すことから逃避するために下りてきたのであって、更に三界内の各空間において、多くの神は自らの境地より高い次元のことを知らないで、彼らもある程度の迷いの中にいます。彼らの現れは人間にとって比較的善であり、人間から見ればそれは善なるものです。しかし、彼のいる境地では既に基準に合わなくなり、ただ人間から見れば人間より善であると思われれます。ですから、一部の学習者は執着の中で惑わされはつきりと認識することができなくなります。どのように対処するのでしょうか？ 私は不二法門のことを皆さんに教えました。誰もこのようなものを相手にせず、何を見ても心が動じません。話をせず、全く相手をせず、見もしない、このようにするしかありません。彼らの全てを避けます。何を教えられてもそれを聞きません。あなたが彼らの言うことを聞くようにするために、彼らはあなたの機嫌を取り、明日の宝くじの番号を教えたりするかもしれません。このようにするかもしれません。もちろん、これらのことも偶然なことではなく、これはあなたの修煉の中の難で、あなたの人心を試練しているかもしれません。ですから、皆さんはくれぐれもこれらのことに気をつけてください。断固として彼らと接触しなければ問題はありません。なぜならば、この時皆さんは見極めることができないからです。

弟子：修煉者の小さい子供は医者に治療してもらう必要があるのでしょうか？

師：修煉しない人なら、医者に見てもらわなければならない。なぜならば、常人が病気にかかったら、医者に見てもらわなければならない。私がここで言っているのは、真に修煉する人のことです。あなたの体まで佛体に転化するのですが、これは医者にどのように治療してもらってもできないことです。しかし、多くの大法を修めている人の家庭に子供がいますが、彼らは普通の子供ではないかもしれません。転生する前からこの家の人が将来大法を学ぶと知っており、この家に転生したいと思っています。ですから、この子供は相当な身元があるかもしれません。このような子供の場合、大人が煉功する時に、既に子供の分までやりました。これは子供が自分で煉功することができるようになるまで続きます。多くの場合はこの状況です。これは親が自分で判断しなければならない。もし自分の子供がこのような状況であるかどうか分からない場合、病院に行っても間違いではありません。しかし、このことの中であなたの心をも見えています。あなたにいろいろな考え方や心の状態が現れます。このように話しましょう。つまり、もしあなたが固い決意を持つ大法修煉者であれば、人はそれぞれ運命があるということを知っているはず。問題が起きるべきではない子供であれば、安易に問題を起ささせることはありません。往々にして、私が先ほど言った高い次元から来た子供は法を得に来たのであって、業力が全くなく、病気にかかるわけはありません。子供は大人の代わりに何かに耐えているかもしれません。多くの場合はこの状況です。しかし、これも絶対的なことではないので、具体的なことは皆さん自分で判断してください。

弟子：シンガポールの学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：江蘇省の弟子は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：江蘇省無錫の靈山大佛は毎日、一万以上の人に拝まれています。しかし、大佛に憑き物があると言われており、お腹に多くの骨箱があります。弟子はあそこに法を広めに行くことに対して議論しています。先生に教えていただきたいと思えます。

師：法を広めることは人に対して行っているものであって、その大佛に対するものではありません。皆さん考えてみてください、人間は骨箱を佛のお腹に入れたのです。これは良いこと、それとも悪いことをしているのでしょうか？ 和尚はなぜこのようなことをするのでしょうか？ 遺族の人がお金を払ったからです。和尚はお金のために、佛まで売り物にしています。現在はここまで乱れている時期なので、人々は佛を拝む時に誰を拝んでいるのでしょうか？ 骨箱を拝んでいます。ここまで可笑しくなりま

した。死んだ人は人間によって大きな罪を犯し、その家族と先祖まで影響してしまいます。

弟子：私は法輪となんらかの光景が見えましたが、法輪功の弟子と交流してから、それが直ちに全部消えてしまいました。私は間違ったのでしょうか？

師：これは二つの方面から見るべきです。もし歓喜心を抱いて他の人に話しているのであれば、消えてしまい、あなたに見させないようにしているかもしれません。なぜなら、あなたに神聖な光景を見せましたが、あなたに更に努力して大法を確固として修煉するという心、純粋な心が現れず、かえって歓喜心が現れたので、もちろんあなたに見えないようにします。なぜなら、あなたの修煉のために責任を負うべきからです。もしあなたがそれを見て、歓喜心や顕示心が生じなければ、これが本当のことであって、他の学習者にも正念を固めてほしいという考えから、他の人に話しても問題はありません。話してはいけないのではなく、最もしてはいけないのは、執着心を抱いて話すことです。

弟子：もし私たちの修煉が良くできて、圓滿成就する時、私たちはまだ若いかもしれませんが、その時、家族に対する責任を果たし続けるべきなのではないでしょうか？

師：このような執着を取り除かなければ、決して圓滿成就することはできません。あなたは常人の考えでこれらのことを考えています。皆さんに教えますが、私は皆さんの業を滅し、皆さんを見守っているだけではなく、あなたがもし正果を得るまで修煉したら、あなたの世界も豊かになります。多くのことは私がしてあげなければなりません。以前にあった命をもって償わなければならなかったことや、殺した生命や、各種の恩讐などは全部私が片付け、多くのことをしてあげなければなりません。これらのことに執着していれば、それはあなたの修煉の道に大きな障碍となります。これらの人間の心を放棄し、ひたすら修煉してください。圓滿成就していなければ、家族としての責任を果たさなければなりません。これは必ずそうであるべきです。

弟子：『聖書』の中で、イエスが教会堂で高利貸しの人に怒ったと書いてありますが、法輪大法は怒ってはいけないと要求しています。もしイエスが佛であれば、どのようにこれを理解するのでしょうか？

師：『聖書』はイエス本人が書いたものではなく、人間によるイエスの行動に対する表現は決して正しくありません。高利貸しの人に厳しい態度を取ったことはあるかもしれませんが、イエスは悪を憎み、悪事を働く人に対して厳しいのですが、本当に怒ることはありません。

弟子：上海の弟子は先生にご挨拶を申し上げます。先生が上海にいらっしゃることを心より望んでいます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：どのようにしたら、大道無形の各次元での現れをより良く理解することができるのでしょうか？ なぜならば、私は輔導員の仕事をする時、一部の学習者、学会の責任者と輔導員がそれぞれの次元にいるので、法を広める仕事に対して共通認識をなかなか得られず、議論し、時間も精力も消耗されたことがあるからです。これはそれぞれの理解と関係しているようです。

師：これはよく見られることです。中国大陸の多くの輔導員が既に成長し、問題にぶつかったらまず自分に問題があるのではないかと考えることができるので、皆健全に修煉しています。しかし、一部の地区の輔導員は法を勉強してからまだ日が浅く、またはそれほど精進しておらず、仕事が忙しかったので、問題にぶつかった時議論になり、自分の内心に向って探さないのです。何か気になることがあれば、まず自分のどこかが変ではないかと考えるべきです。このようにすることができるかどうかは、大法学習者を量る基準です。自分の出発点が間違っていないと思ったら、穏やかな態度で相手に教えればいいのです。トラブルの当事者双方が皆このように自分に対処することができれば、トラブルがあるのでしょくか？ 何を議論するのでしょくか？ しかし、このように話したとしても、修煉の中で執着心を取り除くための議論はまだあります。時には相当激しいものとなります。なぜならば、皆さんが修煉しており、まだ取り除かれていない心があり、それに気づいていない時があり、自分を探すことを忘れる時もあるからです。態度や自分の観念に執着すれば、議論が起こる恐れがあります。

弟子：大道無形の各次元での現れについて、どのように理解すればいいのでしょうか？

師：大法は今日、社会で大道無形の形式をとっています。如何なる常人社会の形式も大法が広く伝わることに相応しくないなので、私は如何なる形式をもとりませんでした。学びたければ来ればいいのですが、学びたくなければ帰ればいいのです。自由です。もちろん、真に学ぶのであれば、あなたに責任を負います。しかし、このような責任の負い方は常人には見えないことであり、常人社会の空間で無形なのです。事務所もなく、金銭や物をも蓄えません。全ての人は常人社会の一員であり、常人社会の仕事、勉強があり、各種の環境の中で生活しています。皆さんが常人との唯一の区別は、自分を修めていることであり、自分が修煉者であると皆さん自身は分かっています。常人は修煉していないので、時には修煉者を理解することができません。学習者が中南

海の国務院に行ったのですが、なぜこれらの人が急にやってきて、また急に去っていったのでしょうか。彼らは社会の一員であり、形式がなく、一人の修煉している人に過ぎません。民衆の中の一員であり、自分の気持ちを表してからまた民衆の中に戻り、組織形態を持っていません。しかし、このような状況であればあるほど、組織を作ること慣れてきた人、組織されることに慣れてきた人々にかえって理解されなくなり、完備した組織を持っていると思われました。修煉者が行ったことに対して、現在の中国人には理解されにくいのです。ひいては、現在まだ良い人を実践しているこれほど多くの人々がいることを全く信じていない人もいます。

弟子：白人が前回の文明によって残された人であれば、黄色人種とその他の人種はどうなるのでしょうか？

師：前回の文明の時、当時の大陸プレートは現在と違っていました。しかし、南アメリカと北アメリカ周辺に黄色人種が住んでいました。現在あそこに住んでいるアメリカ・インディアンは黄色人種です。中国に住んでいた黄色人種にとって最も中心な場所はカザフスタンです。大洪水の後、新疆の砂漠一帯に移住しましたが、当時そこは土地が大変肥えていたのです。その後、東に向かって移住し続けていました。厳密に言えば、インド人、エジプト人、ペルシア人、黄色人種、白人、黒人は近代の地球上の六大人種です。その他は混血人です。

弟子：先生の説法は『転法輪』にある謎を解いていると思います。このように先生の各地での説法を長く聞いていると、これは自分の『転法輪』に対する悟りになるのでしょうか？

師：皆さんに本当のことをお話します。つまり、人間には私の説法を聞く資格がないのです。(拍手) 人間のために説法するだけなら、如来佛一人がこの世に下りてくればよいのです。私が説法をしている時、在席の中に見える人がいますが、異なる天体の全ての次元の生命が皆聞いています。私は人間に説法しているだけではありません。しかし、修煉の中で、きっと皆さんに修煉のためのものを残してあげます。私が法を全部説き、全部明確になれば、修煉するものがなくなり、修煉にならないのではないかと心配しているのでしょうか？ この意味でしょうか？ そうではありません。皆さんに修煉のためのものを残します。

弟子：新疆ウルムチの学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：もともとの果位まで修煉するのでしょうか？

師：高い次元にとっては大体そうです。しかし、自分が誰であるかを知っていますか？あなたは高次元から来たものなのではないでしょうか？ 高次元から来たとしても、罪があって落ちてきたのでしょうか？ 自分がどこから来たのかはあなたには全く分かりません。上から下りてきた生命の場合でも、数千年の輪廻転生、長い歳月の中で、先天の本来所有している全ての特性が失われるほど業力が重くなりました。強い人心を持って質問しないでください。

弟子：あなた及びあなたの生活について話していただけないでしょうか？

師：あなたは現在まだ常人であり、出しているのは常人の質問です。私は自分について話したくありません。私が人間に与えているのは他でもなく、この法です。私を普通の人間とみなしてください。私は他でもなく、人間の形象を備えている人間であり、ここで皆さんに話をしており、しかも人間の言葉をもって話をしています。私にどれほどの能力があるのかということについては、私はそれを披露することもなく、皆さんにはそれを見ることもできません。しかし、あなたの修煉に対して、私は責任を持ち、しかもこの責任を持つこともできます。この点に関して、実践の中で学習者も体験したと思うので、私は多く話す必要はありません。未来の人は私の存在を知らないのです。もし、今日の学習者が全部圓滿成就することができれば、私は人間に法を説いたのではなく、神に説いたのです。修煉しない人は、来世、次の輪廻を経れば、何も分からなくなります。将来の人は私のことを知ってはいけません。同様に神話の物語として残るのです。ですから、私は人間に何かを残したくありません。私の生い立ちや私自身にまつわることなどを、私は話したくありません。他の人にも書かせたくありません。弟子として、彼らは将来私のことを知るようになります。圓滿成就したら私が一体どういう人なのかははっきりと知るようになります。(拍手)

弟子：ニュージーランドの学習者は尊敬する師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：心性の向上と法理に対する認識との間に大きな差があります。法に対する認識は先に進んで、わりと高い境地に達していますが、実際の修煉の中で心性の向上は遅れており、時に非常に良くないのです。この状態で悟った理がずれてしまうのではないかと心配しています。

師：実はこの点に気づいていることは既に修煉がかなりよくできていることです。常人は自分の誤りに気づくことができないのに対し、あなたは修煉中の異なる状態に現れた差異に気づいています。実はあなたが思ったようなことではありません。法理に対する認識は通常すぐ理解するものです。社会の現実の中で人間の各種の利益と情に

対する執着が法理を理解してからすぐに取り除かれるのであれば、修煉する必要もなくなり、関を乗り越える必要もなくなります。何かに執着している時に法から言い訳を探すのであれば、それはきっと間違っています。求めずに法を勉強してから分かったことはきっと正しい悟りです。

弟子：北京と米国の学習者は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます（拍手）！

弟子：修煉の中で色欲の業力が現れる時がありますが、どのようにそれを滅するのでしょうか？

師：夢の中で遭ったことは皆さんへの試練であり、普段の修煉の中でしっかりと心を修めたかどうか、この関をしっかりと乗り越えたかどうかを見るためです。それは一種の試験であり、この関を乗り越えることができるかどうか、修煉がしっかりとしたものであるかどうかを見えています。その時だけ、本当の状況が現れてくるからです。そのとき、あなたにある何かを隠したい心、ごまかしたい心が全部寝てしまったからです。良く行うことができなければそれを重視すべきです。何と云っても良く行うことができなかつたのです。普段の修煉が良くできれば、夢の中できっと良く行うことができ、乗り越えることができます。

弟子：問題にあった時、何かを考えている時、いつも自分のどうこうを考えているばかりで、どうしても取り除くことのできない根本的なものがあるようです。ですから、とても悩んでいます。どうして正覚という状態を保つことができないのでしょうか？

師：本当に素晴らしいのです。あなたが取り除きたいこの心は私に見えています。これが修煉です。自分の私心、その根本的なものを完全に取り除くには一つの過程が必要です。それは人生の半分を経て形成されたものです。あなたは修煉の中できっとそれを取り除くことができると私は信じています。これが「私」というものの根本なのです。これに気づくことができ、修煉の中でそれを取り除くよう努力することができ、非常に素晴らしいのです。これが修煉なのです！

弟子：自分が精進しておらず、苦を嘗めることが苦手で、根性もないと感じていますが、自分の苦を嘗める能力を高める方法はあるのでしょうか？

師：本を多く読み、徐々に修煉の意志を固めることができれば、他のものを克服することができるようになります。近道はありません。修煉はとりも直さずこのように修めるのです。これらのことに気づくことができ、非常に素晴らしいのです。これらのことを認識することができることは、これは常人にできないことです。実は自分に対

しての不満足は即ち修煉しているということです。徐々に能力が高まっていきます。

弟子：今回、海外のマスコミの師父と法輪大法に対する間違っただ報道を聞いた時、大法を守るために何かの行動を取りたいと思っていますが、心の中で彼らの行為に対して見下していますが、この状態は正しいのでしょうか？

師：他の人が大法を攻撃している時、それを自分に対する攻撃であると思っていなければ、あなたは大法の一員ではありません。なぜそれほど多くの人の中南海の国務院に陳情しに行ったのでしょうか？ 天津の事件は自分に加えられたことだと思っているからです。警察が大法弟子を捕まえるのは自分を捕まえていると同じだと感じています。なぜならば、彼も修煉者の一員であり、皆同じ法を勉強しているからです。天津の学習者に対する迫害を他の学習者は善意をもって関連部門に陳情すべきではないでしょうか？ マスコミの間違っただ報道に関して、マスコミにそれが間違っており、私たちの真実を教えればいいのです。大法に対する悪意の迫害に対して放任してはいけません。世の人々が法を得ることに影響してしまえば、それは由々しき一大事です。報道をお互い転載することができるから、この新聞社が報道したら、他の新聞社はそれを転載してしまいます。皆さんが自分の体験から話せば、説得力は報道より強いのです。私李洪志が良いと言われても、私は気にしません。私が悪いと言われても、私は気に留めることはありません。常人は私の心を動かすことができません。しかし、学習者として大法を守ることはやるべきことです。しかし、悪の一面を用いて争ってはいけません。善の心から本当の状況を話せば、即ち法を守っていることになります。

弟子：深圳の全ての大法弟子は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます（拍手）

弟子：（一）奉国寺の原始六佛にある法身は彼らの根本的な次元を表しているのか、それとも修煉中の次元を表しているのでしょうか？

師：佛は既に佛になったため、修煉と次元のことは既にありません。なぜこれを聞くのでしょうか？ これは大法の中のことでなく、修煉の向上とも関係ありません。

弟子：（二）原始六佛は先生がおっしゃった原始の生命なののでしょうか？

師：彼らの名号は既に佛の特定の位なのです。原始と言ったのは名号の時間のことについて言ったのであって、換わっているうちに、第一の原始生命ではなくなるかもしれません。原始という概念は異なる次元、異なる境地において異なる認識があります。人間にとって人類の文明の歴史を超えれば、または数千年経てば、原始になると思っ

ています。しかし、佛の目から見れば、それはただの一瞬に過ぎません。高次元の生命にとって、それらはそれほど原始ではなくなります。

弟子：(三) 釈迦牟尼佛の像はなぜ西に向かっているのでしょうか？

師：あなたは佛教を修めているのではありませんか？ 佛のことについて私に聞いてみたいと思っているのでしょうか？ 私は大法を説いているのであって、佛教と何の関係もありません。ここに座っていれば、それはあなたの縁です。あなたの質問に答えてもいいのです。廟はどのような方向に向かって建てられたものもあります。東に向かっているのもあれば、西に向かっているものもあり、南に向かっているものもあります。しかし、佛像はきっと正殿の向いている方向と同じ方向に向いています。これは何も意味しておらず、人為的なものです。佛は実在している偉大な覚者ですが、あなたが言っているのは泥でできた像のことだけです。佛を修める時、心を自分の真の向上に置くべきです。全ての有為のこと、または佛教そのものに執着することも修煉ではなく、障碍なのです。

弟子：真善忍は超物質でしょうか？ 彼らは原始の生命なののでしょうか？ それとも超原始生命なののでしょうか？

師：まだ佛教のことを言っています。ここに入ってきたら、それが縁なので、あなたにお答えします。真善忍は全ての全ての宇宙の特性であり、宇宙の法は真善忍から生まれたのです。下へ行けば行くほど、法が複雑になり、要求も多くなり、あたかもピラミッドのようです。この大法は宇宙の衆生に異なる次元の生存環境を切り開き、衆生に異なる次元の佛、道、神を造り出し、中に天、地と全ての物質をも含んでいます。宇宙の複雑さは人類の言葉で明白に言い表すことができません。宇宙は更にその他の異なる状態があって、異なる次元で生存する要素を提供しています。例えば、相生相克、陰陽などなどです。多くのものはこの宇宙大法から派生してきたのです。(拍手)

弟子：交流会の前に事務局に交流会のことを問い合わせましたが、電話に出てくれた人に「あなたは法輪功の弟子ですか」と聞かれました。私はすぐに答えられませんでした。なぜならば、私は独学しているもので、既に一年経ちました。李先生にお聞きしたいのですが、私はあなたの弟子なののでしょうか？

師：真に学んでいけば、自分で学んでいるかどうかにかかわらず、あなたは私の弟子です。(拍手) あなたの变化と私が普段あなたへ与えるお告げは既にあなたにこれを教えたと思います。皆さんと一緒に修煉するという環境がないため、多くのことを悟ることができませんが、修煉していないということではありません。学習者と一緒に煉功すれば、向上は速くなります。

弟子：1992年以降、各宗教の神々はこの世のことを手放したと先生はおっしゃいましたが、私の悟性が低いため、その意味が分かっていません。どうかご説明願います。

師：このことは私が数回の説法の中で言及しました。今回皆さんに説法しに来たのは、単なる人を済度するだけではなく、宇宙で法を正しており、人類まで関わっているからです。つまり、皆さんが以前信仰していた神は、今回法を正す中で新たに位置を配置し直され、人はなおさらそうです。ですから、彼らはなぜこれ以上人類のことを構うことができるのでしょうか？

弟子：安徽合肥、瀋陽、延辺の大法弟子は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます（拍手）。

弟子：大法に対して良くないことを言っている人と争っていれば、大法の真善忍の忍を守らなかったことになるのでしょうか？ 人間と争うのも執着心なのでしょうか？

師：善の心、善意から相手に道理を説明し、教えればいいのです。どうしても聞いてくれなければ無理にすることはありません。実はあなたはまだ意識していませんが、あなたはその人に大法の法理を話している時、その人に法を説いているのであって、法を伝え、彼を助け済度しているのです。聞くかどうかは本人の選択であり、なぜ争う必要があるのでしょうか？ 善の念に基づいてこの全てに対処すれば効果はもっと良くなります。

弟子：法を勉強している中、時にある法理を悟りましたが、それを話そうとした時に、それが間違っていると感じてしまいます。この感覚はますます強くなりました。

師：そうですよ。先ほど言ったではありませんか？ 心で会得するしかなく、言葉で表現することができません。常人の言葉でそれを話すと、直ちに常人と同じレベルの道理になってしまいます。

弟子：修煉者の中に女性は男性より多いのですが。

師：現在の女性はより速く大法を認識しているようですね。これは本当に良いことです。

弟子：私はもともと子供が好きで、子供が欲しいとも思っていますが、大法に接してから、人類はこれほどレベルが低く、道徳がここまで腐敗堕落していると思うと、子供を生んだら、子供の純粋な心が汚染されてしまうのではないかと思い、そうする必

要もないと考えました。

師：皆さんに教えますが、あなたが生命を作り出すのではなく、その生命は人体に入って生まれ変わってくるのです。業力があれば自分で持ってきます。あなたに生まれなければ、他の人に生まれてきます。あなたは大法の学習者なのに、なぜ子供が汚染されるのを心配しているのでしょうか？

弟子：私は幼稚園の先生です。私の仕事は各幼稚園に行って中国の文化と伝統を教えることです。先生の五式の功法を子供に教えたいのですが、よろしいのでしょうか？

師：非常に良いことです。実は一部の地区の幼稚園の園長から先生まで皆練習しています。子供も練習しています。子供は執着がないから、あそこに座ると本当に良いのです。純粹かつ清らかで、本当に素晴らしいのです。これはもちろん良いことです。大法の法理で子供を教育すれば、彼らにとって一生の宝物です。

弟子：キリスト教、佛教を誠心誠意で修め、法輪大法を得る機会のない人は、その将来はどうなるのでしょうか？

師：私がこのことをする前に、彼らの神は真に済度される人に既に明示しました。信じる人もいれば信じない人もいます。私はそれがどういう宗教なのか、その人の地位がどのくらい高いのか、その人が誰なのかを見ておらず、ただ人心を見るだけです。如何なる人も私の前ではまず人間であり、私は人の心しか見ていません。大法を得たくなければ、私はあなたを手放しますが、得たければ、あなたを済度します。こういうことです！ 形式や職位、信仰しているものを見ません。（拍手）

弟子：大法を修めて既に数年が経ちましたが、最近皆さんと交流している時、話し出すと止まらない学習者を見ていると、ますます話したくなくなります。この状態は正しいのでしょうか？

師：その人が止まらずしゃべり、きりがないようにしゃべっている時、あなたはますます聞きたくなく、いらいらしていれば、あなたになんらかの心があるということです。あなたに話しているわけではありませんが、彼のとまらない話はあなたに向かって言っているのです。（拍手）つまり、あなたの心を晒けだしています。実は既に現れています。ただ自分が言い訳をして、その人が止まらずにしゃべっていると言っています。どんなことに遭ってもまず自分を見るべきだと私は皆さんに教えたのではありませんか？ あなたにある何かの心が現れたのでしょうか？ 皆さんは一人の修煉者であり、超常的な人ですが、なぜ常人の良くないところを見るのでしょうか？ なぜ常人と比べるのでしょうか？ その人は修煉の人ですが、彼も常人の中で修煉しており、まだ取り除いていない心があり、まだ常人としての現れが残っています。こ

これらの心がなければ、その人は佛や神になるのではありませんか？ この道理でしょう。ですから、学習者に何かの問題が現れたら、すぐその人の修煉は何と出来が悪いのでしょうかと言いますが、自分を見ないのです。法の中で既に皆さんに教えたが、二人がトラブルに遭ったとき、それを見た第三者まで自分を考えるべきです。つまり、彼らにトラブルが起きたのですが、なぜ私はそれを見たのでしょうか？ 私に何かの心があるのでしょうか？ 私に同じ問題が存在しているのでしょうか？ ですから、修煉は真に自分に対して責任を持ち、自分を見るべきです。しかし、集団で法を勉強する時に大法ではないこと、または大法と関係のないことを長々としゃべっている学習者についても言及したいと思います。それは学習者と学習者の修煉を妨害していることで、くれぐれも注意してください。こういう場合、はっきりと指摘すべきです。

弟子：修煉者の利己的な一面を見て、耐え難いのです。

師：それなら、あなたにまた何かの執着心があります。誰もが修煉者の心を動かすことはできないはずです。その人の利己心が現れたのを見ましたが、それが現れたのはあなたがその人に教えてもらい、その心に気づかせることによって取り除いてもらうためかもしれません。あなたはかえって彼の私心に動かされ、耐え難くなれば、あなたに心がないと言えますか？ そうでしょう。

弟子：自分の心より魔が生じれば、なぜ底まで落ち、これ以上修煉できなくなるのでしょうか？

師：これは一種の言い方で、もし自分の心より魔が生じ、取り戻せない程度まで至ったら、底まで落ちてしまうということを言っています。本人が気づくことができれば、まだ挽回の余地があります。法理から私は皆さんに自分の心より魔が生じることの危険性を教えています。

弟子：修煉者は教育のシステムを改善し、社会の人々が大法をより受け容れやすくすることができるのでしょうか？

師：多くの学習者は大法が良いと思って、全ての人心を変えることができ、人々を向上させ、社会を真に最も良い状態、道徳の高尚な社会にすることができると思っています。そのため、もし社会に一般的に受け入れられ、更に多くの人々がこのようにすれば、この社会はなんと素晴らしいだろうと多くの学習者と修煉しない常人は思ったのです。実はあなたの心は常人社会に置かれています。私はこのようにあなたに教えるしかありません。なぜならば、あなたは法に対してまだそこまで深い認識に達していないからです。私がこの法を伝えたのは常人社会をどうこうするためではなく、修煉者に法を伝え、修煉者が済度されるようにするためである、ということをおあなたは

まだ理解していないからです。常人社会は取りも直さず常人社会で、もし本当に常人の中の高官が大法の善の法理をもって日増しに滑落している社会の道徳を変えることができれば、それは人の心の善の現れであり、私は反対しません。なぜならば、大法が伝えだされたのは、人のためになることをするためだからです。こういうことです。それは常人のことであり、将来法がこの世を正す時になると、それは次の段階で行うことです。

弟子：台湾の全ての学習者は先生にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます（拍手）。

弟子：幾つかの質問についてお伺いしたいと思います。人間の能力の高さは元神に生まれつき備わっているものなののでしょうか、それともそれぞれの徳と業力によって按排されたのでしょうか。

師：あなたが指している能力に二種類あります。一つは常人が言う賢いということです。これは修煉の中で何でもありません。かえって強い障碍なのです。もう一つは修煉の中で現れる常人を越える能力のことです。これには先天的な要素もあれば、後天的な要素もあります。しかし、修煉の中でこれらは次元を量る基準とされていません。その人の修煉がどうなっているのか、法を認識する能力を見る際、その人の根基を見るのです。人間の先天的な本性は長い歳月の中で生生世世の輪廻転生の中で埋没されました。それぞれの本性がまだどれくらい現れるかのことは即ち、人間が言う根基と悟性の程度です。

弟子：世界各地に昔から残った佛道神の各種の荘厳な形象は彫刻と画像によって表現されていますが、どのような形でこの世に残ったのでしょうか？

師：佛の形象は人間がどのように知ったのかということを行っているでしょう。人類の道徳の文明がとても良かった時期の人間と良くなかった時期の人間に大きな差異があります。人類社会の道徳が高ければ、神が人間に示した宇宙の真相も多いのです。これは社会全体によってもたらされた状態です。今日の社会はそれができません。なぜならば、今日の社会が信仰しているのは科学であり、神ではないので、ますます見えなくなったからです。その上、この科学は宇宙人が人間のために作り出したものであり、宇宙人もこの空間の生命です。ただ宇宙人は他の星にいる生命です。フランスのルーブル宮にある壁画の多くは神のことを描いており、非常に真に迫っています。私はそれを見て、確かにその通りだと思っています。しかし、それはキリスト教の全盛期の時に残ったものであり、つまり人類の道徳が最も良い時期、最も神を信じている時期に残ったのです。また芸術家でありながら、敬虔なキリスト教徒でもあ

る人もいます。そして、神は彼にそれを見せるのです。彼もそれが見えるのです。ご存知のように、芸術家の瞬間記憶力は非常に優れており、神の光景を見た時、それを描きました。真実の状況を描いており、非常に真に迫っていると思います。本当にその通りです。多くの人がこのような壁画を見てから、神聖かつ敬慕の気持ち、つまり偉大な神に対する敬慕の気持ちが湧いてきます。佛像はこのように人類に残されたのです。

弟子：修煉して圓滿成就した物質は上の空間にとって非常に貴重なものになりますが、これは返本帰真に更に修煉の過程を加えるということを指しているのでしょうか？

師：このような関連付けはまったく合っていません。修煉の過程はつまり返本帰真です。「圓滿成就した物質は上の空間にとって非常に貴重なものになる」という話は筋の通っていない話です。あなたが圓滿成就した境地を超えた更に次元の高い神にとって、貴重なものになるとは限りません。更にレベルの高い神にとって、それが土であると思われています。実は人類社会ですが、宇宙の良くないものは全部ここに落ちてきています。

弟子：キリスト教徒は大法を修煉することができるのでしょうか？

師：先ほども言いましたが、つまり神が宗教を全く重視しておらず、それは人間が作り出したものです。イエスの在世中、教会堂はなく、キリスト教もありません。釈迦牟尼在世中、お寺もなかったのですが、人間によって作り出されたのです。釈迦牟尼在世中、経書がなく、イエスの在世中、『聖書』もありませんでした。後の人が当時彼らの話を思い出して書いたものです。

ですから、佛、神は人間が作った形式を全く重視していません。形式を重視して何の役に立つのでしょうか？ 宗教は人類にとって悪いことではありませんが、形式そのものに執着すると、神佛の真の弟子ではありません。ご存知のように、文化大革命の時、お寺が壊されましたが、その時佛はなぜ手を出さなかったのでしょうか？ 手を出して何の役に立つのでしょうか？ どんな人でもお寺に行って、何でも求めています。佛に頼みごとをする人は修煉しているのではないのです。佛を拝む目的は後継ぎが生まれ、大金持ちになり、加護され災いや難が滅されるようにするためです。佛はあなたにこれらのことを叶えてあげるためにいる者なのではないでしょうか？ 佛は根本から衆生が済度されるようにし、あなたを天国に済度しようとしています。あなたは常人の中の安逸を求めています。ですから、佛に対する心、佛に求める心は最も良くない心であり、佛につらい思いをさせる心です。人間は自分が何をやっているかを知らず、人間の情で佛に対処しています。「佛や菩薩がいい、慈悲深いと私が言った

から、佛や菩薩は私の願いを叶えてくれるべきです。この佛が良いと私が言ったから、佛はきっと喜んでくれます」。人間はこのように言えば佛が喜んでくれると思っています。人間の心が佛の心を動かすことができると思っています。幾らかのお世辞を言えば、佛を喜ばせることができると思っていますが、何とばかりかばかしい話でしょう。このような人が佛像を拝んでいるので、佛はまだそこにいられるのでしょうか？ それを聞いてうるさく感じ、佛はとっくにそこにいないのです。佛が佛像にいなくなれば、世を乱す邪悪な霊体がやってきて、後継ぎを求めに来ます。それでは、人間は何を拝んでいるのでしょうか？ 皆さん考えてみてください、このお寺を残して何の役に立つのでしょうか？ 人間がそれを壊さなければ、佛は雷を落としてそれを壊すのです。この道理ではありませんか？ ですから、神は人心だけを見ており、あなたの心が修煉の基準に達することができなければ、佛教や宗教を守って何の役に立つのでしょうか？ それは人間が作り出したものです。あなたが守っているのは宗教であり、宗教そのものに執着しています。その宗教を守ったから、佛になり、神になり、天国に行くことができると思っていますが、何と馬鹿げた話でしょう。

弟子：キリスト教と法輪大法は大した違いがないのでしょうか？ ただ東洋と西洋の違いだけなのでしょうか？

師：それは大きな違いがあります。法輪大法は宇宙を造成した法であり、中に全ての衆生、人間、神、天地と万事万物が含まれています。全ての神は宇宙大法によって成就されたのです。『転法輪』という本を読んでみてください。この本の中にこれらのことについて私は明白に説きました。本を読んでください。英語版の『転法輪』もあります。

弟子：どうか私の質問に答えていただければと思います。私は修煉していますが、この三年余りに現れた難を簡単に乗り越えましたが、去年になってはじめて、関が現れました。血便が数ヶ月間続いています。これはなぜでしょうか？ 現在既に身体に影響しています。これで修煉して高い次元に到達することができるのでしょうか？

師：皆さんは既に分かったと思います。この質問自体に問題があります。まだ今までの三年間のように何もなく修煉していきたいのでしょうか？ この三年間は本当に精進したのでしょうか？ 本当に自分を修煉者として扱ったのでしょうか？ この基準に達したのでしょうか？ 時には心の中で家のことを法よりも大事に思い、考えているのは金儲けのことで、肉親に対する執着を法よりも重要視しています。自分の業力を減したくなく、苦を嘗めたくなく、これは真に修煉している弟子なのでしょうか？ このように十年修煉しても、何をも変えることができません。私は本当に高い次元へとあなたを導き、あなたの体を浄化し、以前溜まっていた血や必要でなくなっ

た血、良くないものを外に出している時になると、それを身体の問題として考えてしまいました。正念を固めることができず、これは修煉の中で師父が身体を浄化していると信じないのです。修煉は非常に厳粛なので、それを病気だと思ってしまったら、私はどのようにこの問題を見るのでしょうか？ これは関を乗り越えることになりますか？ 心がまだ固まっておらず、私はあなたの体を浄化し、本来なら良いことです。誰がこのようなことをしてあげるのでしょうか？ あなたが修煉したいから、してあげたのではありませんか？ あなたはこのことに対して正しく認識することができず、今までのようにゆっくりと修煉し、精進することができません。これらのことを法から認識することができなければ、身体の浄化という過程は長引き、なかなか終わらないのです。ずっとこの状態で数ヶ月続きました。それによって考えはますます落ち着かず、時間が延びると難が大きくなったようで、更に乗り越えられなくなりました。「なぜこんなに長く続けているのに、まだ乗り越えられないのでしょうか？」と動揺し始め、「修煉が役立たないのではないか、先生は私を見守っていないのではないか、またはこれはどういったことなのか」と考えてしまいます。既に身体まで影響してしまいました。この問題において、あなたは自分を煉功者としてみていません。

多くの具体的なことについて、私は普段皆さんに説きたくありません。皆さん考えてみてください。多くの方が大法を修めてから、不治の病や重病の患者も皆治りました。なぜならば、彼に執着がなく、精進しているからです。「病院に死と宣告されたので、もう死を恐れません。今日大法を得たので、それを修めよう。得られる分だけでいい。ひたすら修煉します」と自分の病気を全く考えていません。知らないうちに病気がなくなりました。なぜならば、病気に対して如何なる執着もないからです。一方、重病や不治の病にかかって亡くなった患者もいます。なぜでしょうか？ 彼らは病気治療のために来ており、煉功の中で自分の執着を放棄することができなかったからです。「あの人は法輪功を練習して不治の病が治ったので、私は煉功したらきっと治ります。私が煉功しにきたので、先生はきっと私の面倒を見てくれます」と思っています。「本を読めば、煉功をすれば、先生はきっと私の病気を取り除いてくれます」と思っています。心にわずかの差しかありません。その人はまだ「先生はきっと私の病を取り除いてくれます」と思っています。表面上、皆さんと一緒に修めており、本を読んでいます。病のために読んでいるのではありませんか？ 私はその人の本質を見るのです。修煉は厳粛なことであり、あなたは佛をごまかしているのでしょうか？ 師父をごまかしているのでしょうか？ 自分自身をごまかしているのでしょうか？ 本質が変わらなければ真の修煉と言えるのでしょうか？ なぜ学習者は夢の中に試練が現れるのでしょうか？ 自分を粉飾する全ての心が寝てしまったとき、あなたの状態を見るためです。真に修煉者の基準に到達しなければならず、この道理

ではありませんか？ 大法を学んでいます、まだ精進していません。くれぐれもこの機会を逃さないようにしてください。多くの人は法を得ることさえできません。

弟子： どうして私が集団煉功に参加すると、妻の機嫌が悪くなるのでしょうか？

師： あなたの業力によって引き起こされたことです。人間は以前生生世世に多くの借りを作りましたが、修煉したからと言って、それを返さなくてもよくなり、自在に神になってしまったら、それはいけないことです。なぜこれは神といえるのでしょうか？ 業を作ったらそれを白紙に戻し、これはなぜ許されるのでしょうか？ 神は一人の人間の生命を見るとき、その人の一生を見るのではなく、一生一生の輪廻転生はあたかも一日が経つことのように。朝目が覚めたら、昨日やったことを認めなくなり、それではいけません。そうではありませんか？ 神はあなたの生命の全体を見えています。あなたがどの段階で何をしたのか、全部見えます。

弟子： どのように心の容量を拡大するのでしょうか？

師： 修煉の中で自然に拡大していきます。これは意識してすることではありません。執着を多く放棄すればするほど、心が広くなり、物事の受け容れ能力が高くなります。

弟子： 夢の中で、師父から四つのガラスコップが送られてきましたが、一つだけは良いものです。次の日に自分に四人の娘がいるという夢を見ましたが、一人だけが生き残りました。他の修煉者は私が師父から与えられた分の四分の一しか得ることができなかつたと悟りましたが、正しいのでしょうか？

師： あなたに悟らせるものなので、私はそれを話してはいけません。私が話してしまうと、私に悟らせるためのものになってしまうのではありませんか？

弟子： 佛の境地と次元に到達すると、まだ主元神と副元神があるのでしょうか？

師： その時はないのです。私は『転法輪』の中で説いたではありませんか？ つまり、圓滿成就したら、副元神は護法またはそのほかの形として存在するしかないということです。

弟子： 中国は修煉の良い環境ですが、オーストラリアでしばらく生活すると、修煉の効果に影響するのでしょうか？

師： 影響することはありません。修めていれば、どこにいても同じです。

弟子： 一時間座禅する時、多くの場合時間が長いと感じ、痛みに耐えながらやっていますが、業を滅する時は座禅の時間が速く感じられ、すぐ終わってしまいます。しか

も感じ方も違います。この情況は正しいのでしょうか？

師：これはあなたが煉功する時に現れた状態です。皆自然に現れてきた状態です。

弟子：業を滅している時に座禅すれば、両方業が滅されているのでしょうか？

師：両方とは何ですか？ 修煉してできたその部分は痛くありません。身体の本足の足を指していますか？ それはもちろん両方痛くなります。長く座ると、足だけではなく、腰も痛くなり、腰が痺れたり、心が落ち着かなくなったり、吐き気がしたりします。皆現れてきます。その筋骨を労せしめ、その心志を苦しめることだからです。足が痛くなるのはただ体を耐えることだけで、心が落ち着かなくなることもあります。崩そうとばかり考えてしまいます。多くの人にこのような経験がありました。苦しんでいれば業が滅されてしまいます。

弟子：先生にお目にかかれて大変光栄です。お聞きしたいことがあります。先生は不二法門について言及しましたが、普段佛経と書籍を読めば、私のような低い次元の学習者に役立つと思います。徐々に基準に達していきます。佛教も佛法だからです。これは正しいのでしょうか？

師：あなたの考えは正しくありません。大法と佛教は同じことではありません。『転法輪』を多く読んでください。あなたに話したいことが本当にたくさんあり、あなたが知りたいこともたくさんありますが、今日の時間は足りません。私はここで修煉の弟子に異なる次元で修煉している時に遭った問題について説明しています。修めたければ、本を読んでみてください。『転法輪』を読んでから決めればいいのです。修めるのか、佛教の経書を読むのか、自分で決めてください。大法は全ての宗教とは違います。

弟子：先生にお会いして、感情が非常に高ぶっています。何も話せなくなり、何かを話したいのですが、何を話せばいいのか分かりません。これは主意識がはっきりしていないのでしょうか？ それとも人間の情が強いのでしょうか？

師：違います。あなただけではなく、多くの学習者は私に会うと、話すことがなくなります。なぜならば、こういう時、あなたが修煉してできたその部分は元気になったからです。その境地の法理は修煉してできたその一面が何でも知っています。ですから、私に会ったら、聞きたいことがなくなりました。師父は皆さんに多くのことをしましたが、皆さんの分かっている一面はそれを知っています。表面上皆さんに法理を説いただけですが、皆さんの他の面における真の向上のため、業を滅することをも含めて、多くのことをしました。皆さんはそれが見える一面を持っています。ですから、私に会うと泣きたくなります。皆さんが修煉してまだできていない一面はその理由を

知りません。この状態です。なぜならば、師父が皆さんのために何をしたのかを言葉では表現できないと皆さんには分かっているからです。この救いようのない乱世に、人心と道徳が急落している状態の中で、皆さんの業を滅し、多くのものを与えましたが、この機会がなければ、それは誰もしないことです。ですから、皆さんの他の空間にある一面はそれが見えました。この状態です。(拍手)

弟子：お聞きいたしますが、どうすれば自分が法を得たかが分かりますか？ かつて糖尿病でコレステロールも高かったのですが、法輪功を修煉してから、正常になりました。これは、法を得たからなのでしょうか？

師：それこそ、私があなただけを弟子として扱った証拠ではありませんか？ 修煉は体を調整してから、正式な段階に入ります。あなたはすでに変化の真っ只中にいるのです。私があなただけを弟子として扱わなければ、そのような変化はありません。まさに法の中で、すでに変化しているではありませんか。多く本を読み、学法し、精進しましょう。

弟子：煉功のとき、煉功の口訣を念じながら煉功してもいいのでしょうか？

師：口訣は煉功の前に念じればいいのです。煉功中はそうする必要はなく、何も考えないのが最も良いのです。

弟子：最近入ってきたばかりの学習者は既に数年も修煉した弟子と一緒に圓滿成就することができるのでしょうか？ 年配の方は知識教養レベルに限りがあり、また自分自身の要因もあって、法を理解する力が弱いのです。彼らの圓滿成就をどのように見るべきなのでしょう？

師：年配者を軽蔑してはいけません。誰であってもその精進の程度を見るのです。このように年を見てはいけません。私はあなたに法を得させた以上、あなたに十分な時間を与えるのです。しかし、精進することができず、自分を煉功者として見なすことができなければ、全ては台無しになってしまいます。私があなたに与えた十分の時間は、あなたが精進することができるようにするための十分な時間であり、修煉しているけど修煉していないような時間を与えているわけではありません。

弟子：子供が生まれて三日後、黒い服を着て礼帽を被っている白いひげのある外国のお年寄りが子供に布団をかけているのを見ました。私の一家は全部大法を修煉しているので、この外国の老人ではなく先生の法身が現れるべきだと思います。私はそれを理解できませんので、ご説明していただけないでしょうか？

師：私は異なる次元に異なる形象を持っており、異なる次元の異なる天国をも持って

います。その上、子供がどこから法を得に来たのか、何かの神に見守られているのではないか、この全てを私はあなたに教えてはいけません。ひたすら修煉してください。これらを見たから、更に精進すべきです。

弟子：大法から受益した白人の弟子は自ら進んで自分の民族の皆に大法を紹介してもらいたいと思います。

師：全ての大法弟子は白人であっても、中国人であっても、他の民族の人であっても、修煉の中で自分が何をすべきかを分かっています。

弟子：私はオーストラリアで四カ月かかってやっと煉功点を見つけました。学習者に会ったことはありませんが、全部見覚えのある顔です。交流会で会った全ての大法修煉者も以前会った事があるように感じ、人見知りをすることはまったくありません。これはなぜでしょうか？

師：それは当然のことです。大法弟子が修煉しているのは同じ法であり、皆大法の中で修煉しています。修煉して良くできたその部分はお互い知り合っています。また、お互いはいつの世か知り合っていたかもしれません。

弟子：頭の中がいつも真っ白になります。あなたは法輪大法が良いと言いますが、なぜ覚えられないのかといつも人に言われます。

師：修煉して良くなった部分、はっきりと分かった部分は隔離され、まだ分かっていない部分はつまりまだ修煉できていない部分です。あなたを妨害するものが再び作用しないようにしています。

弟子：子供の時から劣等感があり、これも取り除くべき執着心なのではないでしょうか？

師：そうです。それを取り除きましょう。今あなたは最も幸せな宇宙の生命であり、大法の学習者であり、天上の神まであなたのことを羨ましく思っているのに、自分が劣っていると感じさせるものがあるのでしょうか。

二日間の交流会はいよいよ終わります。この二日間の法会を通じて、皆さんはある程度向上したと思います。しかも、今回の法会は非常に円満に行われ、予定の効果を収めました。今回の法会を通じて、全ての学習者は自分の差を見出し、今後の修煉中、絶えず精進し、修煉の決心を固め、法会の効果を着実なものにし、これは交流会を開くことの目的です。また、法会を通じて、皆さんはそれを一種の原動力にし、今

後の修煉の中で自分に対して責任を負うようにと期待しています。在席の中に新しい学習者が多く、大法に対してまだそれほど認識していない人もいます。この門に入り、この全てを見たので、本を読んで少し調べてほしいと思います。なぜこれほど多くの人が学んでいるのでしょうか？ なぜこれほど多くの人が修煉しているのでしょうか？ この場にいると、あなたもその和やかな雰囲気を感じたと思います。これは現在如何なる情況、如何なる環境の中でも、見つからないことです。

私がこのことをする時、人々に責任を持ち、社会に責任を持つことを念頭に置いてきました。社会に厄介なことをもたらすことはなおさらありません。如何なる学習者が如何なる地区においても、良い人として振舞うに違いありません。私たちはどんなトラブルと困難に遭っても、善の心から善意を持って相手に説明すべきであり、決して悪の一面を作用させてはいけません。

この法会はもうすぐ終わりますが、今後更に精進するように期待しています。今回の法会の後、法を学びに来る学習者は更に増えると思います。今までの成果を受け継ぎ、これからの局面を切り開きます。皆さんはそれをやり遂げることができると信じています。最後になりますが、絶えず精進し、一日も早く圓滿成就するように期待しています！（拍手）